

野津原方言

続編

27



表紙画……………松本英明  
題字……………姫野順子  
カット……………カット集団

★ ご協力頂いた皆様 - 松岡実。内藤忠人。橋本杉平。武田忠。

県五六。熊谷義人。甲斐英行。井下キヨ。三ヶ尻ムツ。

松本英明、菊屋奈良義、岡本政雄、佐藤吉晴、橋本寛治、  
足立勇、伊藤剛、川崎康生、江藤典子、藤塚シズメ、  
那須茂都女、波多野テル子、斎藤キミエ、御手洗六代、  
斎藤啓子、中山ミチエ、川西哲男。野津原支所。、  
小野雄司、川辺毎、佐藤幸人、児玉実男、今村元茂。

★ 使わせて頂いた資料 野津原村報、野津原小史、月の唄、  
野津原文化財調査こぼれ話、野津原ボラ協議会資料、  
歴史記録会資料、商工会街道観光資料、読み語り資料、  
文化協会放送資料、唄って健康教室資料、宇曾山物語資料、  
野津原観光ガイド資料。野津原中央公民館観光資料。。

◇ 調査収拾…小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。  
調査協力…橋本寛治、分藤サツキ。監修…小野寿祐。  
プリンター…佐藤源治。仕上げ…那須政子、赤星ヨシミ。  
印刷、製本…小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ。

平成29年10月吉日

野津原方言調査会 大分市大字竹矢

☎ 097-588-0572

事務局 588-0092



目次

見だし……………	1	● 故郷の味	
目次……………	2	故郷の魚すし……………を	3 5
はじめに……………	3	キンピラケンチン……………	3 6
◇ 民話、伝説		シイタケコブイリコ……………	3 7
貰い湯ヨンジョクレ…	5	ダンゴの味恋し……………	3 8
水車小屋の夢の花…	7	方言説明……………	3 9
特配に貰う酒……………	9	宇曾のだいこん漬け……………	4 0
哀しい戦時下……………	1 0	※ 方言単語	
幸せとは……………	1 1	《に》⇒ガ……………	4 1
方言説明……………	1 2	《に》⇒ロ……………	5 0
◇ ちよつといっぷく…		★ 方言子どもの世界	
生演奏の唄楽しさ…	1 3	言葉使い気をつけて……………	5 1
人の宿命は紙一重…	1 5	家庭が解る子ども世界…	5 3
各地共通野津原語…	1 7	ほんとうは仲良し……………	5 5
方言説明……………	1 8	◇ あげなこげな話 4	
△ 宇曾山物語《7》		メモは大切に……………	5 7
霊峰の輝き……………	1 9	そんな答え……………	5 8
能登神楽神の心……………	2 1	野津原方言かるた……………	5 9
故郷の宇曾山参道…	2 2	方言の温か調査……………	6 2
宇曾山は心の支え…	2 3	◎ 宝の玉手箱	
あげなこげな話……………	2 5	赤坂石だたみ街道……………	6 3
登山4キロ旅行……………	2 6	アセリ棒……………	6 5
方言説明……………	2 7	熊本言葉も入って……………	6 7
参道コース7本……………	2 8	方言説明……………	6 8
◎ 女性の底力			
唄って健康教室……………	2 9		
余暇を生かした夢…	3 1		
されど女性の強さ…	3 3		
方言説明……………	3 4		



△ 宇曾山物語街道〈8〉

浅内ウナギ物語……………71  
 夜中の御戸開き……………72  
 方言話に花が咲く……………73  
 嫁おもい……………74  
 直入からの参り……………75  
 女人禁制習わし……………76  
 方言説明……………77  
 次回の予告……………78

● 民話、伝承

戦前戦中第一人者……………79  
 凍る間もなし水車……………80  
 人生双六道険しい……………81  
 方言説明……………82

◎ 故郷回想記

宿場町さくら屋……………83  
 時代は変化 心も……………85  
 汽車はじめて見た……………86  
 馬子唄で綴る今市……………87  
 ※ 方言単語  
 〈ぬ〉⇒ロ……………89  
 〈ぬ〉⇒ン……………98  
 ◇ 終わりに……………99  
 ◇ 伝言板……………100



宇曾山物語り街道が ご支援の皆様の 資料がたくさんあり  
 ましたので 今回は2回に入れ さらに次回にも 残りが入り  
 ます。昔から子どもの 『虫封じ』に 霊験があらたかであり  
 多くの皆様が 子どもの幸せ念じて お参りした神様でした  
 。遠方からのお参り 宇曾講さえできた そんな夢のような  
 人間の幸せに 結びつく絆の 神様として 存在しているの  
 です。

歴史にも関わり 故郷では 夢やロマンも あっただけに  
 掲載5回が思わぬ 事で8回まで 広がりましたが それだけ  
 ご愛読の 皆様の関心も 大きかったのと 感謝申していま  
 す。次回の結びの後には 予定としては 水路開発に功績の  
 『工藤三助』物語の 予定です。ありがとうございました。



## はじめに

皆様のご支援ご協力により 今回で通算37冊 続編としても『続 27号』が 完成いたしました。多くの ご愛読者の希望そのままに 年2回発行も 軌道にのりまして ご愛読される皆様には700円の ご支援を頂き 今日まですべて 手造りで素人集団が 継続してまいりました。

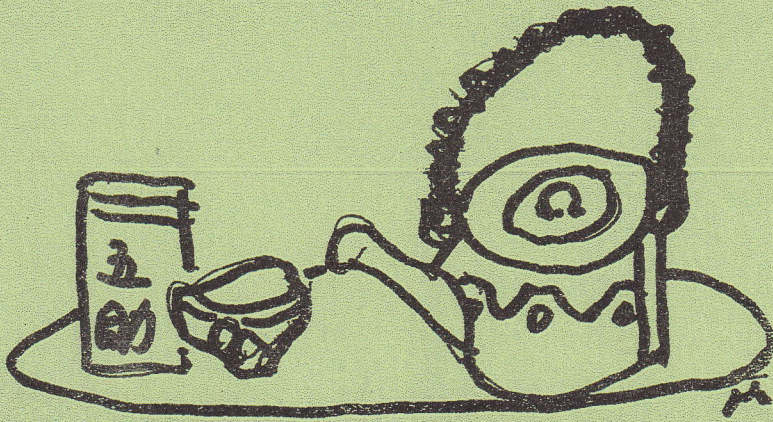
平成の東日本の 大震災にも各地に 合計45冊を 救援見舞いに贈りました。おそらくすぐには 読む余暇もないと思いますが すこし落ち着いた時 もし目にとまって 笑って頂けたらと念じています。三陸鉄道の駅長さんからは すぐお返信も頂きました。苦闘されながら 復旧が少しずつ 進んでいるのを お聞きして 嬉しくなります。ご愛読の皆様の 気持ちも こめらているのです。

今回も『民話、伝承』が 初めて聞くこと 知ったと吃驚もあるかも。『女性の底力』 ご本人はニッコリ 『コレ私の事』と 話した当時が回想されそうです。『宝の玉手箱』案外 知らない話題も……シリーズ物の 街道五助旅日記 『宇曾山物語』資料が多くて 今回は分割2編 それでも残り も一度次回のシリーズ判に お邪魔して参上します。従って次回からの 予定工藤三助街道物語は その次に順延になります。ので ご了承の程を。

現在100冊限定で 会員がすべて手づくりで 発行しています。そのうち30冊余は 公共関係に謹呈します。この中には 県立図書館にも3冊 後の中から 皆様のご愛読者に 支援して頂いてその支援浄財で 毎回発行を続けています。現在25年を迎えていますが 今後も続く限り 会員一同頑張っ 継続する予定ですので こんごもご支援 よろしく願い申し上げます。



# 民論 價廉





民話伝承 『いっぱいヨンジョクレ』

昭和んはじめ頃にゃ 農家じゃみんながミンナ 風呂があるわけでんナカッタ。隣んしと仲良しじゃき《ですから》 風呂は借りにゆく。薪は持ち込みじゃき《ですから》 水ん汲み込み時は《などは》 交替したりしち《して》 入らせてもらう。そん《その》家ん 主なしが《ひとたち》入ると 大きな声じ 『湯にはいらんな』ち おおけな声じ オラブ《呼ぶ》。

隣んしでん 年よりやら子どもが来る。『いっぱいヨンジョクレ』⇒オフロニハイラレテナ⇐ これが挨拶になる 親しみのある言葉。『早くは行ってな』と 言うとき湯かげんを見に若い嫁さんが クドの前にかがみ込む。ちいさな風呂釜じゃが 慣れたものじ 上手に底板《釜にあたらぬように 丸い板があつて 足で押し沈めち その上には行って沈む》

『おかんはどげーな』『ちょうどいいで おーきに』 若い嫁さんの心配りじ 少し薪がさしくべられた《追い炊き》。農家ちゅうてん《と言つても》 汚れるが毎晩入るき《はいるから》 そげー《そんなには》 汚れちょらん《よごれない》外できれいに洗うと 中じヌクモル《暖まる》と もうでる。

『ありゃもう出たん』 家から来たほかん《ほかの》 したち《人たち》が 着せ変えち帰らせる。『ばあちゃん おごっそになりました』 ばあちゃんありがとうの意味で 湯に入るのも ご馳走の一つにしていた。『ゆっくりは行ったな』『うん サイナラ』『サイナラ』 簡単な一言が どれだけ《どれほど》 きずなになつちよることか。

終わりになる頃にゃ 湯がすくのなるき 若いしたちなると水いれち 追い炊きする。入るなゝ遅うもなるが。

若い嫁さんが来る頃あ もう月が照りよった。『もう食べたな』 決まった挨拶じゃが 食べたのですかと 相手の気持ちを想い合う言葉。『いま食べたんで ゆっくり入りよ』 ゆっくりと言われる せめても湯の中で そげん《そんな》 気持ちになる時間は 湯か寝ている時ぐれ《ぐらい》。

『おおきに』 ありがとう。くらがり《暗くても》もう隣風呂場は今は なれちよる《慣れている》。気が休まるきツイ長湯になりそうじゃが 『ゆっくり入りよな』 この家の若い嫁さんが こそっと来て小声で 言うちくるる《言ってくれる》 苦労したけど 隣に若い嫁さんが来て 先輩になったら いっべんに気持ちが 楽になったごたる《楽になったよう》

『おご馳走になりました』 『あらもう出たんな まあお茶でどうぞ』 お茶でもどうですか 『すみません 旦那が来るまじ まっちょっちないいかなあ』 待っていても よいですか 『いいぐれか こっちあがりよ』 旦那が ちゃんと作戦じ先に だしたごたる 。だしたのでしょうか。

お茶を のんじょつたら《飲んでいたら》 大きな咳はらいしち 小走りに来た。『もう食べたな』 『すんだで まあよりよ』 小声で 自分の嫁が出たのを見届けち 『すまんえ每晚』 済みませんね まいばん風呂借りに来て 『なに言よるな そげん心配いらんで』 そんな事言わなくても いつでも入りに おいでよ。

苦しい時には助け合い 楽な時は分かち合う 隣同士ならそれがあっちこす《あればこそ》 何事もたすけあえる。人間同志ん本当ん想い合いじゃもん。『もうななれたな』 『うんちったなあ』 すこしはなあ 言葉すくなに言うのは 慣れた証でんあろう。笑顔が笑い声になっち 夜も更けちいく。





民話伝承 『水車小屋ん夢の花』

『米つきいくき 番ぬシチヨリナァ』《していなさい》『あい  
行くき』 《ゆきます》 おかちゃん《母親》に 連れのうち  
車まじ来た《一緒に水車まで》。『ありゃ お前が番に来たんか  
《番にきたのですね》 じいさんと話すかのう《おじいさんと話  
しをしましょう》』『あい』 照れくさそうに 母親の後ろから  
チョコット顔う出した。

臼がギコギコ動き 粉ひく臼は粉を チツトじゃが《少しだが  
》 巻き上げよった。《粉が風に舞いあがっていた》 はじめち  
《はじめて》見る 車ん中《精米所の中》に タマガッチョツタ  
《ビックリシテイタ》 あんまりキョロキョするもんじゃき《あ  
まりにも 見回すので》 『はじめちじゃの』『……』 黙って  
コクンと 頷いた。

物音にちっと《すこし》慣れた頃に おじいさんが車の 話し  
をしちくれた。《精米所の話をしてくれた》 『ちっとずつ流れ  
よる水じゃが《ですか》 そんな水がアタダ《急に》 おちる力を  
利用しち《して》 水車を回すと そんな《その》力が 中にある  
歯車に伝わち《て》 大きな力になり 機械が次々に動いち  
米をちーたり《ついたり》 粉をひいたり《つぶして粉にする》  
するんど《するのですよ》。

娘はそんな動く力不思議な動きに いっとき《しばし》 見と  
れちよつた。《見取れていた》 舞い上がった粉が 天井に張ら  
れたクモの巣についちよる《ついている》。じっと見ちよると  
《見ていると》 機械が動きたんび《たび》 そんな《その》巣も  
揺れよる《ゆれている》 と そんな時じゃつた《でした》 奥か  
らクモが急に出てきたち《きたと》 おもっとなんか餌が あった  
んかどうやらつかまえたごたる《捕らえたよう》。

見惚れちよるナカメ 米がツケタ。《見ている真に精米が出来た》。たまがった《吃驚した》 娘をじっと見ちよつた《見ていた》 おじさんも そんな《その》素朴な タマガリヨウニ《ビックリシタ 姿に》 やさしい娘じゃなち 感心しちしもうた《してしまった》 『お前かたん米も出来たど《出来たよ》。二人は顔見合わせて 大笑いした。

『珍しい所う見ち よかったのう』 珍しい場面が見れて よかっただろう 『うん』笑顔で頷く娘。 やっと おじいさんとん 話が弾んだごたる。米を袋に入れると 『迎えがくるまじ 話しゅ するかのおう』《迎えがくるまで 話しましょう》 きさくに話す おじいさんの話にゃ《には》 水車の役目や 大水に故障した時に みんなで 修理したりする話。

うっかり忘れて 時間が過ぎて米が 碎けてしまった話。大雨に 日に水が湛った話。クモがあまり大きい 獲物で一緒に落ちた話。 いろいろ話上手に 話してくれたき《くれたので》 時間のたつのも 忘れてしまいよつた《忘れかけていた》 じゃが《ですが》 こんなに昔からの 水車や水の力を利用する 人間の知恵。コナが 舞い上がる そこに虫が食べ物を探めち来る それを待ち構えち 餌にするクモ。

人間だけじゃねえ《ない》 虫や動物がここにゃ《ここには》 生活の 結びつきを作って みんなが一緒に生きている。助け合い かもしれんなち《しれないです》。おじいさんの 話を聞きながら 今日とは とてん《とても》勉強が できたごたる《出来たようです》。

迎えに来たおかちゃん《母親》に つれられち帰る娘は 『また 話し聞かせてな』『いいど』《よいですよ》 ギコギコ臼の音聞き ながら わが家に帰った。





## 『特配でもらう酒一升』

戦運が厳しゅうなっち 酒なんかは統制じゃった。祝言なんかは質素儉約じゃが そんな反面『生めよ増やせよ』が 魂胆にゃあるかん知れんじゃった。それに死亡した時でん 人生ん生き死ににゃ 酒がつきもんな古い 時代かるんしきたりでんある。じゃき『おかみ』もそれはそれ 特配が行政かるあっち 届け手続きじ頂いたもん。

葬式にゃつきもんの 『この人の最後の食事』と 会葬者にも『お膳』を出して お別れに感謝したが 米の供出が厳しゅうなっちそんな膳も中止。『時節柄お膳の義は取りやめになりましたのでご了承を』と 通達の垂れ布を掲示したもんじゃ。お膳接待ん頃にゃそんな組に 料理ん得意者がおっち 油揚げや コーヤ豆腐ん味付けにゃ悲喜こもごもあり。

『あっこん班の味付けぁ 上手じゃなえ』 『これ勿体ねえき頂いち帰ります』と チリ紙に包んで持ち替えるしも。これも心こめられた料理を 大事にする心使いかん知れん。古老が丁寧に下座から 『本日はようこそ お参りくださいました。故人の最後の皆さんとの食事ですので ごゆっくりおあがりください』とご挨拶する風習もあつた。

当時は土葬だったき 組み内ん人たちがハカワラじ 穴を掘り『いけかき』と そんな役を言うたが 特別ん役じゃき 御神酒があっち 掘り終わったら慰労するんが 習わしじゃった。素朴なしきたりも 年月ん流れじ改善され 新しいあり方になつたがそれが現在社会かんしれん。

人の生き死ににゃ巡り会わせた 人と人が関わり会うのん 世の習わしでんあろう。

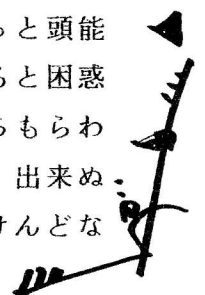
戦争に行く人たち 赤紙が来ると指定の時間に 絶対行か  
やらん義務があった。村ん鎮守か辻に集まった そげな人  
たち『元気にお国んために 頑張ります。留守をお願いいた  
します』と 元気に挨拶 それに関係者が激励の見送り挨拶。車の来る  
往還まじ日の丸旗をふり 見送った。

独身者はともかく 子供を抱えた女房や 年寄り両親を残した  
招集兵、小さい子がいる若い兵士、留守家庭も種々の事情があり  
男兄弟の多い家庭じ 何人も出た家もあった。まだ親の顔も記  
憶に残らぬ そんなあいだの親子など 否応なしに戦火に応じ  
出る若い人たちの見送り 涙は禁物と言っても これが『別れ』  
にもなる。

出た次の日に激戦で散華 そしちすぐ敗戦の人たちもあった。  
さらに現実には戦争じ悲劇は 敗戦も知らんじ いつまでもくり返  
されよった例もあった。中にゃ弾薬ものうなり 食料も補給がの  
うじ わびしい戦死もあったよう。巡り合わせた場所が そんな  
人運命も大きゅう左右しよった。

なし戦争したんか いろいろ理由もあったじろうが それに心  
に関係のう戦地に行く そこに醜い戦争ん罪なあり方。繰り返  
しとうねえが どうにもならん現実ん時代。世の中んあり方を真剣  
に 考えちみりゃ中止も出来た 出来なかつたなど答えも多い  
が犠牲になった人こそ 哀れと思われてならない。

戦争は二度とあってはならない 人間の能力で力でやめる そ  
れがなで出来んのじゃろうか。霊長動物の人間同志 もっと頭能  
を有効に使えば 中止出来る素質はあるはず。欲が挟まると困惑  
するのか 有効に生かした明るく 楽しい世の中に しちもらわ  
んと いつまでん悪循環。人間の人間らしい世界構想を。出来ぬ  
相談じゃねえち思うが。これじゃ将来も不安な ごたるけんどな  
。



化かされた五助さんのしあわせ

荷物を無事に届けち 帰り道がチット遅うなった。五助さんでん慣れた道でん トキタマ変な事も起こるもん。峠前んワカサレまじ来たら 妙に雲いきが騒がしい。『ありゃー何かオコルンカノ』 こげな時ゝヒトヨコイするんが 上手な手じゃつた。五助さんな 腰うおろし 馬も手綱う長うしち たばこ入れをで一た。

たばこ吸う真似すると あたりゅ見回した。ぼそ…と黒いもんが横たくりに来た。『ありゃ来たか』 素知らぬふりしち 『しもった たばこが切れちよる』 残念そうな大声じ 言うど悔しそくに 大けなため息ついた。たばこを吹かすると 動物は嫌うき ちようと確かめた。

『来た来た』 化け物がそばに にじり寄っちきた。何するんかちじっと見ると 手をで一た。『何か取り来たんか』 懐かる帰りに拾うた 灰石をだすと 貰った焼酎を チビットたらしちかけた。灰石にしみくうじ いい按配に焼酎石になった。出えた手にそん 焼酎石を渡しち 『あゝなんか頭が ふらふらする』 化け物な 『しめた やった』ち 思うたんか 渡しちくれたソん焼酎石を匂う。

『こりゃいいにおい 焼酎玉んごたる』 ニッコリ笑ったごたる ばけもんが いきなり 『がりかり』と そん石に噛みついた。『しめしめ 調子ゆう食いついた』 ほくそ笑んだ五助さん じっと薄目じ見ると だまし食いついたきか 歯に応えたんか そんまま じっと堪えたごたる。

『化け物め歯を痛めたんかの』 しばらく動きもスゴキもねえが 突然ノタウチマワリヨル。『バケモンめ 卑しん坊が 食いち一たき歯をヤッタノ』



- 9 P なっち…なつて。統制…戦時には食料不足になり 米をはじめ日用品まで統制され 物のによっては切符制度など 厳しい時代だったがその反面 子どもを生む奨励はあって 多い子どもの家庭には お褒めの賞もあった。たばこ、酒、燐寸から衣料、汽車に乗る切符 魚、キヤラメル、なども全て統制されていた。生めよ増やせよ…子どもの出産奨励。じゃき…ですから。おかみ…政府。そん膳…おとき。あっこん…あそこの。チリガミ…チィシュ。古老挨拶…組み内の年長者。土葬…穴に埋めて葬る。ハカワラ…墓地。いけかき…墓穴を掘る苦役。御神酒…墓堀のご苦勞に遺族からいただく酒。
- 10 P 赤紙…招集礼状。鎮守…地域の神社。往還…幹線道路。招集兵…招集された若い兵士。散華…戦死。食料補給…戦地に食料を送る。じゃろうか…でしょうか。どうにもならん…どうにもなりません。これじゃ…これでは。ごたるけんど…ようですが。
- 11 P ちっと…少し。ワカサレ…分岐点。こげな…こんな。でーた…だした。しもうた…しまった。切れちよる…なくなっていた。灰石…噴火の際に飛び出た軽い石。チビット…少し。ふらふら…目まいの状態。ソン…その。こりゃー…これは。がりがり…乱暴に。薄め…細めた目で。だまし…急に。すごきも…微動だに。のたうちまわる…暴れ回って転げる。ヤッタノー…痛めたのだらう。

いっときしちよつたら そん化け物んも『しもうた』ちはずかじゅなつたんか ゴソゴソ山にヘモドック《帰って行った》もんじゃき 五助さんもエート 一安心しち戻り道う てくてく歩きはじめた。馬が後ろかるこげー 言いよる 『どげい言うてん 五助さんにゃ叶わんになえ』『お前もそげ思うか ほら』 ニンジンがご褒美に出ち来た。



五助

南  
東  
西  
北  
南  
東  
西  
北  
南  
東  
西  
北



## 生演奏じ唄う楽しみ

同志が会費制じ毎月1回 昭和の唄を唄う楽しい会が 続い  
ちよる。それも生演奏じゃき こりゃまた楽しみが違ふ。戦時中ん  
唄がアルカチ思うと 戦後ん若者向きん 歌もでちくるが 唄を  
好きなしゃ心が豊かじゃき なんか言うんもオカシイガ 紳士淑  
女揃いんグループじやき それちゅうてん 上品ぶるワケデン  
ネエケンド。

『オマエドウハ ハナハトかな』『いんげ わしどうは サイ  
タサイタ で』『そくな 又 ミノカサ カラカサかち 思うた  
けんど そりゃまゝ 失礼しました』『いんげいんげ いいんで  
おなじ 昭和じゃもんな』『そりゃまゝ そうじゃが』『それで  
ん 格はチッタ上カナァ』『ジャガエー 先に生まれたんじゃ  
こと。

楽しい笑い声が 会場に響くと 司会者が ニコリ笑顔になっ  
ち 『あんたどう ふんともう いつ聞いてん あかんなゝ』『  
『そげあるなえ そりゃまゝ スンマセン』『いんげ そげな訳  
じゃねえんで』『そくな 食べらるるんかち 思うた それな  
ら お代わりシユウカチ 思うたが お代りゃネエンジャナ』

『サァ 時間になるき 席にちーちくれなゝ』『ちようと待っ  
て さいでーちくるき』『さしでーちゃろうな』『いんげ気のど  
くな つままるると 飛び上がるかん 知れんき』『そんな時ゝ  
おさえつけちゃるわな』『りやーもう おじいこと』『楽屋ちっ  
と やかましいで 早うせにゃ はじむるで』

生演奏じゃき 旋律が鳴り響くと 一瞬緊張もするけんども そ  
ん音は『今日も生きちよつち 参加出来た 喜びがこみあぐる。  
これが 幸せち言うもんじゃろう。

『今日はノリガイイナァ』 天気もいいし 妙に皆が顔も  
うきしちよる。出た曲も60曲 そりー久しぶりん 『赤城ん  
子守歌』もあるで。トウカイリントロウ ちゆう言いよったが  
知らぬが仏じ 後じしたらもう おかしいやら 恥ずかしい  
やら もうふんと。

仕方ねえわな『名つけに呼ばれんじゃつたき』『ふんとなえ  
呼んじ くるりゃこげなこたー なかったが こんだ会うたら  
言うちよくわな』『えーだりい言うん もう昔んことじゃき  
間にあうめえ』『しよわねえき フィルム 逆まきするな』  
『へーそげな 調子んいいことが 出来るんな』『なんとか  
じゃねえな』

罪んねえ話が はじまると 皆んなずり 寄りかかち来る  
もんじゃき 何事かち 演奏が止まった。『どしたんな』『い  
んにゃ 蚊がおったんか こきー刺したごたる』『ゆうべん  
焼酎んにおいが しよりゃせんのだ』『そうかん知れんが』『あ  
ん蚊は 焼酎が好きち 聞いたわな』

話がおおごちなつた。『酒が出たき こんだ黒田節で』 酒  
付き物んの 祝いやら 弔いやらにゃ なしかのう。やっぱ酒  
が昔かる でーじち言いよったが。『戦時中はそれも ままに  
ならんじ祝言、葬式にゃ届けち 特配を受けよつたそうな。酒  
あるが故にかのう。

ここじ休憩しますき 司会者も次々に出る 素人歌手の司会  
は やえこちゃねえごたる。お茶んパックを あげちゴクン  
ノドガ癒される。みんなが皆の 楽しい唄の時間じゃき 出来  
るこつする そん中でん 演奏者は重てえ楽器を ウザキモウ  
サンゴツしち 今日ハリクウジクレタ オーキニ。





## 人の宿命は紙一重

敗戦後約73年目になるんじゃが、戦争時代でん『運は紙一重人生』が罷り通りよった。男が20歳になる《今じ言う成人式にあたる》と兵隊検査がありよった。男としちゃ誉れでんあるき、何とか通るんが願望じゃつた。合格すりゃ2年間の兵隊生活になっち共同生活ん中じ、社会生活かる家庭をもつ、さまざまんこつ全身につけち、除隊満期になる。

ただ有事ん場合は『招集礼状』によっちあつまりそん、有事に備えよった。が平時ならそんまま、行かずじまいにもなる。が近代社会じゃ何かん、形じ交替しち行くこた一、ゆう見られ聞きよったもんじゃ。特に支那事変頃かるん、日本の海外進出が多うなると、事変が起こっちそん、処理に関わるもんじやき、兵隊が足らんとすぐ除隊予備兵隊が招集されよった。

そりゃもう時期も所も、関係のうじ突然の招集じ、海外もあっち南やら北やら、お構いねえ出兵に早変わり。護国と言う理由じ家庭持ちでん、お構いなしん招集になる。そん代わり海外ん場合は、年おいた後ん恩給《現在の年金》に、加えらるるき元氣じ帰還しち長生き出来りゃ、苦勞んかいもあつた。

じゃが運が悪いとそん、基礎計算が厳しいもんじゃき、チットん事じ該当せんじゃつたり、そりゃまゝ勿体ねえ、そげな結果も時折あつたごたる。戦火が広がっち、出兵も多うなり資格者も増える時代になると、制度資格も厳しくなっち、海外は危険度もあっち、条件も多種多様になっちよつた。

海外は期間にもよるがか3倍なんか、その資格に見合ったごつ改善も、されよつたき危険と思うかわり、無事帰還なら条件の良かつた制度に、助かる例も多いごたる。



家族も多い時代じゃつたき 親子じ招集さるる例やら 兄弟が行く事も多かった。また帰りヨセンすぐ 招集されたり『間違いじゃねえ』ち 思うごつ続け様に 何回も招集さるる例 北ち思とこんだ南ち まるじ手玉に取るごつ 出たしもあっち戦争ん 惨めさも何回も なめたもんじゃ。

けんど戦争も済んだ 年うとり年金生活になった。戦争に出た期間がサンニューゆう そりー加わっちよると 苦労したけんどよかったなあち 喜ぶしたち。反対にチット日が足らんじ どげしゅもならんじ いつしょに行つたしたちん 証明を貰うち手続きしたけんど ちつとやっぱ足らん 仕方ねえ泣きの涙。

行き先にしてん 割合に楽じアブノウネエ場所。それかち思うと マラリヤにゃ 悩まされ 食いもんなねえじ 蛇やらワクドやら食う そげな生活した。そげな中じ敗戦を 知らんじ戦後ん何年も 防空壕の中じ こそつと生きちよつた そげな記録もあつた。き、まさに運は紙一重ん 人生であろう。

敗戦後無事さかしゅシヨッタに 帰りん船ん中じ死んだ。途中かる抑留されち 極寒の地じ酷使された。着の身着のままじ逃げたが ふんどしまじ取られた 嘘んごたる話もあつたが まあ命あ残つたしも笑いながら話す。抑留でん大事にされち 毎週娯楽演芸会も許可され 唄を教えたりもした人たち 使役と名目じゃが 優遇された昼食なんか 人ん心が大事にされた 証じゃろう。

歌好きんしが相手ん人が 日本人に『ゆうしちもろうた』ち 差し入れしちくれたり 休暇を利用しち 月見や花見に連れて行く心くぱりん出合いも 紙一重じ楽しい 抑留生活が過ぎたち聞くと 人間の血が通ちよりゃ 戦争せんじいい 話合いこすすりゃいいにち 思うがやっぱ『欲』が入るんかなあ。



- 京都 アマエタ…甘える。イキシ…行くとき。ウチ…私。  
オテショ…小皿。キビショ…急須。ノク…どく。  
シマツスル…片づけ。ナオス…しまい込む。タク…煮る。
- 大阪 マイッベン…も一度。ボチボチ…ゆっくり。ホメク…蒸す。  
オオキニ…ありがとう。オカン…母親。ズボラ…無精。  
ドンナラン…どうにも。ナオス…しまう。ナンボいくら。
- 兵庫 イゴク…動く。イラウ…さわる。オトンボ…すえっこ。  
コソバイー…くすぐったい。ジルイ…柔らかい。  
タボウ…ためる。ツクネル…こねる。ホナ…さよなら。  
ホメク…蒸し暑い。ホロセ…ジンマシン。
- 奈良 イッケ…親戚。オトンボ…末っ子。コスイ…ずるい。  
サカムケ…爪の付け根がむくれる。ツカエル…混雑する。  
ドヤス…殴る。ネキ…側。
- 和歌山 オオキニ…ありがとう。ホイタラ…そしたら。
- 鳥取 ショノム…ねたむ。ニジクリツケル…塗りつける。
- 島根 オンキナ…安心な。アバカン…あり余る。シオハイー…  
塩辛い。クジ…苦情。バンギ…夕方。
- 岡山 オラブ…叫ぶ。セワネエ…大丈夫。マン…運。  
ノーナル…なくなる。テゴ…手間。て
- 広島 イヌル…帰る。オラブ…叫ぶ。カタグ…担ぐ。クジュクル  
…むずがる。クワイチゴ…桑の実。ダンタン…次々に。  
ツマラン…だめ。ドロオトシ…田植え休み。ポーブラ…  
かぼちゃ。ムカワリ…一周忌。
- 山口 キビル…たばねる。サデコム…かき集める。シカブル…  
もらす。スイバリ…木のとげ。ネキ…側。ビツタレ…無精  
者。ヘンジョコンゴウ…逆らってつべこべ。マメ…元気。
- 徳島 インデクル…かえってくる。末っ子。セングリ…次々と。  
チョウズ…便所。ハジカイ…痛痒い。ヒコズル…引きずる。  
。ヒダルイ…空腹。
- 香川 ジルイ…かるんでいる。デキアイ…あり合わせ。セラウ…  
妬む。

- 1 3 続いちよる…続いている。じゃき…ですから。こりゃまた…これはまた。アルカチ…あるかと。好きなしゃ…好きな人は。それちゅてん…それと言うのも。ネエケンド…ないけれど。オマエドウ…あなたたちは。ハナハトか…はじめがハナ、ハトの教科書か。ミノ、カサ、カラカサと続く。いんげ…いいえ。じゃもんな…そうですから。ジャガネエ…ではないのです。そうな食べらるるち思うた…ですか食べられると思うた。シュウカチ…しょうと。ネエンジャナ…ナイノデスカ。さいしで…ちくる…用足ししてくる。つままるると…触られると。じゃもう…ではもう。おじいこと…怖いから。早うせにゃ…早くすまさないと。
- 1 4 トウカイリタロウ…かな読み出来た名前。もらうんと…貰うのです。へえそげな…えーそんな。ゆうべん…昨夜の。なしかのう…なででしょうか。ここじ…ここで。ウダキモウサン…両手でも抱えられないほど。
- 1 5 兵隊検査…徴兵検査で男20歳で全員して 甲乙などに振り分け有事に招集するが 甲種は入隊訓練して2年で満期除隊 待機して有事に備え乙種以下は 補充に備えて訓練もする。よっちあつまり一カ所に参集する。行かずじまい…行かないまま終わる。もんじゃき…ものですから。じゃが…ですが。チットン…少しも。されよったき…されていたので。
- 1 6 帰りよせん…帰るとすぐ。まるじ手玉に取るごつ…まるで自由に勝手に扱うように。サンニユウユウ…計算づくに。どげしゅもならん…どうにもならぬ。アブノネエ…危険ではないので。ワクド…蛙。さかしゅしよったに……元気していたのに。ふんどし…兵児帯。ゆうしちもろうた…よくしてもらった。せんじいい…しなくてもよい。すりゃいいにち…すればよいのにと。



# 金助海道 定園人物語



杉本鳳山

§ 宇曾に出ようか 荒木に行こうか 四辻峠の思案顔 ハ七瀬の  
せせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ §

お宮やお寺は高い所に お奉りしちやる。何も偉ぶっちしたんじ  
ゃねえ 人間が住むなゝヒラテ 水もあっち風もあんまり 当た  
らんじ隣近所ん 行き来ん便利がいい所。そげーしよると 残りん  
場所は辻か高え場所になる。こげなふうになるき それでんコラエ  
チ ソクウ場所にしたごたる。

連れのうち育ち盛りん こんどん娘もそげなふうに 話すぬ聞くと  
とデーブン勉強した それとん年寄りしに 聞いたんじゃろうか  
頼もしゅうなった。奥の院本殿にお参りしち 東かる南に回っち  
裏側にある『下り坂道』う 足ん裏にゃ松葉ん 落てたんがグシ  
と刺激しちくるる。人間の足ん裏にゃ 灸ん坪があるち言うき こ  
こらじゃろう。娘もはじめゃ飛び上がらん ばかり小声を隠しち  
コラウジョウネがいい。

えーと拝殿まじ下ったら 足ん裏が冷え切っち こんだジンジン  
シデータ。五助さんの顔を 横目じ見たら 『そん痛さがご利益に  
なるんど』『えーそうな』 そげー聞くとなんか ポカポカして一  
た。滲んだ汗が若い肌を ちっとシメラケーチ ソクウそよ風が  
脇かる忍びくうじ コンコロモチが いいんじゃろうごたる。

§ 宇曾群山紅い染めて 霧が匂うよ朝山帰り

可愛いあの娘は 誰の花 ソレ野津原ヨーイトコ ヨーイヤナ

§ 七瀬七谷七つの月が 早生を刈る娘の眉引く姿

誰にあげよか この一穂歩ソレ野津原ヨーイトコ ヨーイヤナ

娘が口ずさむ故郷ん 唄が景観素晴らしい 松ん梢ごしにちぎれ  
雲とん コントラスが 心まじ和ませちくるる。



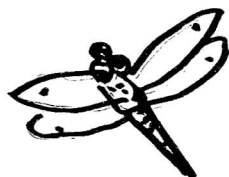
上り際にそろえちおいた 草履が迎えちくれた。本殿には素足になるが 石段も冷て一えし 下り道ん落ち松葉ん 刺激にも修行ん証しが試しちくるる。『ほう美しい竹ん皮草履じゃのう』『うん ユウベ作ったぬ今朝オロシチ 履いちきたんで』『感心じゃの もうそろそろ嫁ごにも 行けるるのう』『チャーリャ』

五助に言わるりゃ 恥ずかし嬉しの心境にもなる。上りん参りてが多うなった。ご願神楽も上がりよる。『お願いするところじ 神楽もあげちくるるんで』『普通は能登神楽じゃが ご願神楽は別にあっち ご幣をいただけるき 持ち帰って神棚に 供えちよく訳。戦時中にゃ貰ったのは 慰問袋に入れち 戦地も送りよった。

『能登神楽ちゃまた』『そげ一言うちおもいよった ここにお奉りするごつなつた そげな人たちと一緒に 京都から下つた神楽師もあつたき 受け継がれちよる』 格式高え神楽は 優美でんあつたが 一時にんずが すくのうなつち絶えたことが。そりゅう若い人たちが復活練習 いまは全部じゃねえが 継承しちよる。

『お賽銭も多おかろうな』『まあの戦中頃まじゃ 銅銭も多かつたき 祭り後じカマゲに入れち 馬にオーセチ下つた話。御輿も若者の血気があつた頃 是るばると大津神社にまじ 下降したとか。そう言や大津神社 深い関わりもあっち 神社囲いん石塔に入蔵橋本壱郎寄進などもあるき 近親絆があつたんかん。それも又崇拜ん情愛が 広がちよつた事にもて結びつくごたる。

こげな眺めんいい場所かる 今は湖底に沈む地区も 当時を回想すると名残りが残る。§夕日は明かし身は悲し 涙は熱く頬濡らすさらば湖底の故郷よ 幼き夢のゆりかごよ§ いつ見ても故郷はいいもん 忘れられない想いで。§思い出とここに来て 二人歩いた 岸辺には今年も 白ゆり咲いてます 楽しかった今は素直になりたい もう一度二人寄り添う霧の七瀬川。



## 能登神楽に託される神の心

応永年間に主従としち 下ってきた神楽師は 幾百年の年月ん中じ 宇曾岳神社ん古老たちに 受け継がれたが 農業経営ん近代化やら 生活ん変換によっち 後継者問題もからみ いったきヨコオウ憂き目に なっちしもうた。惜しなぎーことじゃが 事態ん推移にやもう ヤッパどけもならんこと。

ところが昭和62年 地元ん若しが目覚めち 神楽復活に火がチータ。33番のうちんイクツデン 始みゅうえになった。古老たちん長年守っち来た心ゃ 見事に受け継がれち 大神《オオカグラ》が舞われた時 目頭熱うしち参拝する 信者ん眼差しが 木々んコボレ陽にキラリ光る。神楽衣装が再現の神楽に ロマンの一時う見せちもくれた。タマランナエ モウドケナッテンイイガ。

神楽太鼓ん囃子う聞くと かつての修験者が 山の外 谷んかげり 木の側かるダマシ現れち 満足ん笑みを浮かべちくれ 消え行くんじゃろう。そしち神霊も素晴らしい ご利益を授けちくるる。そげな現象が目に写るごたる。人と神とん目にこす 見えんけんど信じられんごたる 霊験が人ん心に そっと入っちよる。

連れのうた若い娘ん心にも こげな不思議な神ん霊の動き 鼓動に知らせちくるる神ん優しい力。『インゲ人ニヤシラセトネエ』ナンカ欲張った魂胆 じゃが真実はそうじゃねえ 勿体ねえきコソット持ち帰っち皆んなに 分けちあげてえ。『ふーん 感心じゃのう欲張らんのか』『欲張るとドコカジいつか 損するち言うたこと五助さん』『じゃつたかのう もうワスレチしもうたわい』

顔見知りか 手を振っち登っち来た若い青年たち 娘が年寄りとあるきよるき 『変な取り合わせ』ち思うたんん知れん。『どしたんか』『どうもせんで』『こげん年寄りと』『りゃー知らんのな馬子ん五助さんじゃこと』『え あん五助さんか ほんな馬子唄聞きて一のう』

## ふるさとめぐり『宇曾山道』

木の間かるヒトスジそしち又 ヒトスジやわらけー 朝ん陽が輝いちよる。あたりん山に新しい 光をあてちよる。宇曾山本殿かるん眺めた あたりん山群が そんな美しい光を 陰と陽とにクッキリ浮き彫りしちよる。新春の素晴らしさが なんか絵に書いたごたる。

いっとき見惚れちよつたが 今朝も夜のヒキアケカルモウ 参拜ん人影が静まりかえった 山んシジマを破っち 一足一足ポッキリ音を刻みくる 独特な雰囲気 が 繰り広げられよつた。そん中に若いハシヤイダ声 が 手に取るごつユウわかる。近づく町ん昼間たチゴウタ 音がリズムを奏でちよる。

『さっこ おはよう』 そん中の一人に声をかけると 愛想ゆっ頭をペコンとさげた。『はやいなあ』と 言葉が返ちきた。こん娘も20歳を迎える 嫁ぐ日も待たれちよる ごたるが優しい眼差しん横顔は いつも人ん心も捕らえち 好かるるタイプ。仲良し組じゃろうか 爽やかな朝ん行きずりは 余韻残した想いでまで仄か。

宇曾を仰ぎ美しい水に 染まった故郷ん自然。そこじ育つた『さっこ』も 可愛い口もとかる 弾んだ声で話しかけるそんな巧みな 話題はいつ誰から習い 覚えたんか。そん一言一句にゃ若い人たちん 素晴らしさも 物語っているごたる。新春にこげな娘に連れナウ 心ん躍動は年じゃねえ 宇曾山のお陰かん知れん。

『チョコットヨクウナ』『ヤーイノウ』 誘われちたばこ入れを 腰かる引き出すと 上手に火をつけた。のどかにクユラス紫煙が 立ちのぼると 娘が唄いで一た。『宇曾に出ようか 荒木に行こうか……』『やんな上手ななつたのう』



## 宇曾山は心ん支え

足が不自由になっちかるは 両手に松葉杖ち一ちでん 毎朝散歩も繰り返しよった。そんしが言うことによ 散歩しながら見える宇曾山に向かち 『今日も元気に散歩しよります ご加護ください』ち 心ん中じ念じち欠かさんごつ なえ』 そん言葉ん通りに念ずれば 聞いてもくれるありがたい 人生ん空間でんありそう。

“鶯の宇曾坂根の坂に声を生み。稲光宇曾の山容ひとりたち。  
“夏山となりたる宇曾の恋の色 晴天や野萩を満たし宇曾下し。  
宇曾連山また冬山のあたらしき。こんしの作品文芸。

母が来るからと校門じ まちよるいけな子ども 来る時いオカチンが 『学校に行つちよりゃ 宇曾山につれちいくき』ち 論されたじゃろう 小雨んふるに雨傘さしち 女子下駄はいた先生が 側に来ち『教室じ勉強しよりゃ 迎えにくるんど』ち 優しゅう説諭する教師と生徒ん 場面なんかは空天に 宇曾山ぬ介した心ん支えが 物語ちちよるごたる。

紋は家系を表す具としち 使われよったがこん 宇曾神社あ稲穂麦穂に とんぼを形入れした 古さ新しさも判読でくる。益虫トンボが農作物に及ぼしち 大事にした紋でんあるき 先人の場らしいアイデアは 心ニキイ発想でんあろう。参拝記念に受くる御神菓にも こん形が使われちよる。

宇曾山な標高644M 民俗風習によりゃ古くは 神社仏閣は皆こげな 高さにあつたらしい。人ん暮らしに最も適したち されちおりこれかる先は 100M上がると気温は 1度さがるち言う。人間の健康にゃ欠かせん条件 永住した先人が忍ぼるる。参道んあちちやこっちちに見らるるツツシン 発散する養気は子どもん発育にもいいとか気圧変化じ 新陳代謝を助ける 二重奏かん知れん。



鬱病、ネグラ、精神的んダリ、なんかが多い現世にゃ 思い切  
っちこん山ん空気を吸い 眼下に眺むる人里ん 自然に接すりゃ  
おのずと 気分な明るうなっち 天真爛漫こん上ねえ そげな気  
もするが そんな取り組む勇氣 覚悟があるかんも 問題じゃある  
がな。ソリヤマァ ソウジャガ。

地元ん人たちによっち 美しゅう掃除され 管理されちよる  
円福寺庵な南新四国ん 15番札所になっちよる。古くは参道に  
あったんかち仏像も15体 安置されち木陰ん さや揺れん元じ  
過ぎ去った 日々を語り過ごしちよるじゃろう。本尊阿弥陀如来  
像、観世音菩薩像や、先人縁故者ん本屋にゃ 訪れる人も多く  
香りが漂っていた。寺域にゃ地域ん乳牛供養塔、近代化ん歴史の  
遍歴も垣間見られる。正面安置は薬師如来像 あらゆる病気快癒  
の守り仏。寿命を伸ばし宇曾山の 虫封じにも結びつく。

横に保存された焼け仏になった 木像も現在仏の前に安置され  
て 兵火や火災の犠牲になった 昔日を忍ばせるのも痛ましい。  
火伏せ地藏や秋葉神、観音菩薩もまつられて 近郷の人たちの心  
の奉仕や 接待が長く続けられちよるよう。大事な施しにはいつ  
かきっと 報いもあるだろうし それが人間社会と神仏との絆。  
宿命でもあるごたる。

『まゝヨッチお茶でん おあがり』『おおきに 世話がこたえ  
んなあ』『いんげんこと これもウツドウガ させちもらうご  
つなっちよる そげ一思うわ』『ふんとなえ けんどしちょき  
ゃ 又イイコトモアルキナエ』『仏様もナエ コゲナところじゃ  
ズツネカロウガ これもサザメジャロウナァ』『勿体ねえなえ』

仏んお世話しよると『不思議と朝ん目覚めがいいんと』『やっ  
ぱご利益があるんでなえ』『そうで こん前どま 腹がセクキ  
朝早えけんど お茶を持つち参ったら 不思議とここにおるナカ  
メ ゆうなったんで。



## あげな話こげな話題

宇曾神社は明治に入り 近くん神社も合祀しち 神殿を創り現在ん姿になった。火災にもあい被害も 繰り返したけんど 明治27年大改造に入り当時ん 材は熊群山んケヤキを 引いたち言う。志水金さん大工による造営。恵良かる壺の鳥居まじ 競争じ運くうだ事やら 大野川を上っち戸次かる運くうだ説。当時ん宇曾山の地名は 遠くまじ知られちよつた。

国東、日出、杵築、佐賀関ん漁村の人も多く、参るたんび大けな『ブリ』うさげち 来たんが『手ぶり』ち 呼ばるるごつなつたとか。何も持たんじ来るぬ 『手ぶら』ち言うんも ここあたりからか。山頂ん本殿も『真北』より チット西に向いちより 方位を示す図版が天井にある。卯と子の間を指しちよる。

杉が幾百年も過ぎち 枯れたと想いきや そんな株間かる新しい芽3本が ニョキリ背伸びしちよる。夢とロマンを秘めた 奥の院の物語りを語るごたる。本殿に掘られた唐獅子や 兎島高德ん彫刻にゃかっての 武神を守り平和を願う 人たちん心がこめられちよるよう。兎島高德も南朝武士じありゃ 入蔵を頼っち来たかつての人たちなんかも多く通ずるよう。

当時こん造営にやっと 小間使い役じ手伝いに来た 佐藤長平もその後んゃ野津原神社ん 御輿修復を手がけちよるが 技の素晴らしさが筆舌にゃ尽くし難いのも 宇曾神社の宮大工ん 技人たちの隠れた技法をこん頃かる 体得しちよつたんじゃろう。明治12年に奉納した灯籠や石が そんなま苔むしちよるが 24年に奉納されたのは 今でん人ん灯り火としち 使われちよる。

いち時期福岡、別府かるも『講の人たち』ん 参拝もあつたり『まじない師』が おみくじをおろすのに いよいよになると 宇曾天狗に取り出しを念じたと言う。

終戦後昭和40年に『台風予想を』 宇曾様に知らされと申す人 神霊の崇高さと人思う 気持ちの尊さが忍ばれる。大改造は多くの人協力支援し 無事完了したがその後々は 資金不足じ総代が手弁当じ集めち歩き 砂糖を大分まで歩いち 買いに行ったんもそんな頃じゃった。まさに昔日ん物語じゃが。

春の大祭にゃ入蔵ん『お旅所』に お下りがあるが4月ん春祭りが 昭和63年《1988》かる。5月3日⇒5日に変更になった。連休が参るのに至便ちの 予定じゃったが連休は よそでん大かがりな催しが企画さるる。ましてや車社会の移動にゃ 古い感覚では想像できんごたる 結果にもちくるもん。

初日の3日夕刻に奥の院からの 御輿が西日を受けて 飾り金がキラキラと時折野津原かるでん 眺められよった。吉熊、羽原日方、なんかが初日に順幸すると お旅所に入るのも遅くなる。時にゃ若者の情愛も加わる 木の上までん走り御輿が 大津神社ん待つ身に心くばりしたとか。迎える心境も痛いはず解る。

### 『登山4キロ ミニ旅行』

五助さんの繊細じ詳しい話しに 連れのうち娘 幸ちゃくも心ゆくまじん知識が充満。馬子ち思いよったが そんな知識豊かさに人巡り会い人生を 堪能できたごたる。『今日はオオキニ本当いい 勉強も出来たし馬子唄も聞けたし』『あんまりオダツルト天まじも 上るがいいんか』『いいで折角じゃき 登山コースん話もちっとばかし』

- § あん娘年頃 姉さんかぶり いつか覚えた馬子唄を  
ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ §  
§ 肥後か府内か 壺の瀬渡りゃ お国訛りが懐かしい  
ハ 七瀬のせせらぎ 紅葉がチラホラ ホイホイホイ §



- 22 P ヒキアケカルモウ…夜明けから早くも。つれナウ…連れだ  
って。チョクットヨコウナ…少し休みますか。ヤーイイノ  
ウ…えーよいですね。クユラス…長閑に煙りが。
- 23 P ちーちでか…ついてでも。そんしが…その人が。まちよる  
…待っている子。オカチャン…母親。女子下駄…女性用の  
下駄。くるんど…来ますよ。心ニキー…本当に繊細で。さ  
れており…自然になっている。あっちゃこっちゃ…あちこ  
ちに。
- 24 P ソヤマァソウジャロウ…それが当然でしょう。じゃろう…  
でしょう。兵火…戦いや火災で⇒昔はすぐ焼き払う。ヨッ  
チ…寄って。こたえんなぁ…大変でしょう。ウットどん…  
私たちの。コゲナ所じゃ…こんな不便な所では。ズツネカ  
ロー…うっとうしいでしょうが。セクキ…痛むので。なんめ  
…その間に。
- 25 P いち時…ほんの少しの時間。運くうだ…運んだ。大けな…  
大きな。チット…少し。小間使い…見習いや弟子たち。た  
んじゃろう…していたのでしょうか。
- 26 P 手弁当…弁当持参の加勢。お旅所…借りの休憩場所 一泊  
する程度の場所。もっちくるもん…持参して。思いよった  
が…考えて観ると。オオキニ…ありがとう。オダツルト…  
調子に乗せると。肥後…現在の熊本。府内…現在の大大分市  
。国訛りが…国の訛りが入った言葉。
- ⇒⇒⇒ さてと宇曾山に登るにゃ 7つんリートがあった。胡麻鶴  
かる塚野經由ん道。山際かる入蔵に登る道 こん道は自転  
車じここまじくると 預かり場所があった。恵良かる登る  
んはバス利用者が大半。権現かる登る西の方からん 参拝  
者がここが本通り。辻原、吉熊かる入る道。浅内かるん道  
。それに竹中や赤仁田かるん道。



大分市中心部かるなら 西に12Kじバスも至便。ここかる南  
方向入蔵に上り坂 一番解りやすいゴスじ ここかる山道参道が  
約5Kじ 拝殿にたどり着く。車利用なら『旧のびゆく丘』まじ  
道も広いが そんなとは狭い山道が 拝殿のチット手前まじは。  
天気さえよけりゃこれも チョコットいい ドライブコース。

ジャガ折角ん参拝じゃき 壺の鳥居かる山道う自然相手ん 参  
道に砂利道、落ち葉を踏みしめち 人間の古さと新しさが 交差  
するごたる感触を足じ 確認するんも味がある。本式な参道に入  
ると大人じ 約2時間がゆっくり時を 刻む間に自然の景観も  
一人占め出来ち悦に入れそう。一里ごとにあった里程表も 今は  
珍しゅうなったがチット 見え隠れするんも懐かしい。

俗界を離れた心ん安らぎが 不思議と自分を攻めないじ むし  
ろ応援しちくるるよう。足の運びが遅れると 小鳥が藪から飛び  
たち 好奇心を駆り立てちもくるる。考えられん新鮮な気持ちに  
ふっと させらるるんもヤッパ自然の 中じゃきかち自分をほめ  
とうもなる。

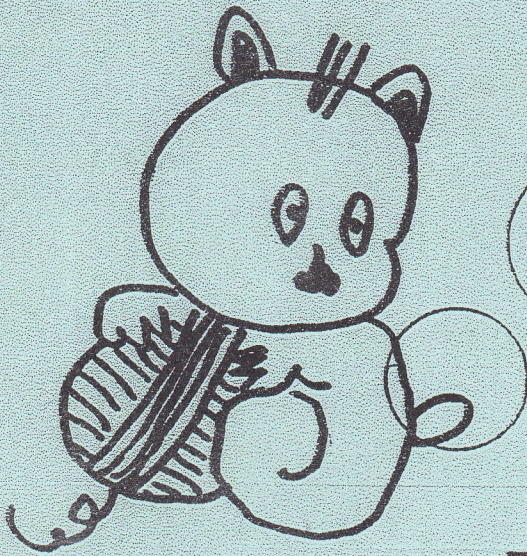
勇気と決断が駆り立てた 参拝の気持ちは悔しさや 欲張り心  
までも払拭してしまう 信仰の影の支えがあるのか。神聖な山に  
入った今は全てを任せ 自分がそれに受入れられる。そんな優越  
感さえも育ったよう。遠くにキラリとビニールハウスが 光った  
そこにも家庭ん糧が育つ。営みの輝きがあるごたる。

鳥居に小石を投げ挙げて 今日の今の占いを試すのも 子供の  
頃と今は異なるが 無邪気になりたい若さが 湧いちくるごたる  
んも 不思議に感じらるるもん。池部針灸院寄贈ん水ため鉢が  
底に落ち葉こそ入っちょるが 出水が溜まっちょる。ここまじ来  
た頃ん喉ん乾きが お陰じ潤おさるる。人の情けん心くばり。





# 女性の底力





## 唄って健康教室

唄を通じて健康を保つ そげな取り組みが こん頃は多くなっち  
来たごたる。『又会えたなァ うれしい』 まるで娘盛りんごつ  
手を取り合うち 笑顔がこぼるるんも 片田舎におると そげ一暇  
がある訳でんねえ。仕事に行くしゅう 呼び止めち話かけてん ほ  
ん立ち話になっちしまう。

市役所かる広報じ 募集があつたこん会に 申し込みしたら何と  
運がゆうじ 仲間中入りできた。素人ばかりん中に入って唄うな  
あんまり 気にもせんじ楽しい。そろそろ同じ時間になると 人ん  
集まりじゃが やっぱ女性が多いのん 旦那が先立つたんか そり  
趣味が違ふこともある じゃが夫婦じ来るしもある。

音楽指導員の『軽い気持ちで 楽しい時間を みんなで』 それ  
が一番助かるごたる。今更歌手になるでんねえ 家じ大声張り上げ  
ち それもやっぱ無理。となりゃここじ 大声じ唄うんが 健康ん  
鍵でんあるち 納得しち入つたんじゃ そりゅう生かしちこす 心  
も和み浄化もし 健康にも結びつく。

台本に合わせた歌唱は みんなが同じ条件じゃき 遠慮も気兼ね  
もねえき 自分が上手じゃち 自分に言い聞かすりゃ 何か声がゆ  
う出るごたる。『あんた上手じゃなァ』 だまし言われたもんじや  
き ちっと嬉しゅなると 自信もち一たごたる。折角褒められたき  
こん人にもと 『いいえなこと あんたんほうが いい声しちよ  
るき ゆうひびくわァ』 そこまじ言うと 横目じ見たら 笑顔が  
かえつた。

人間の本心はそうしたもん 褒められち気分が 悪なるしゃそげ  
おらんもんじ あっちでん こつちでん そげな言葉が飛びよる。  
楽しい時間が 惜しみのう過ぎよるんは 楽しい証でんある。

『ちょっと休憩しましょうか お茶お持ちの方は 喉しるしてください』 指導員が気をきかせ 大勢の人にあわせる 心くぼりは和むもの。男性が少ないんも スポーツにゃ行くが 女性ん場所はやっぱ苦手か。じゃが 唄う事じ全体を 動かす機会にもなる 唄の時間は 脳の刺激から 若返りにも連なるごたる。

これからは順番に リクエスト曲はどうでしょう。指導員も心くぼりが上手。個人の名前を使うと やっぱ優越感も 揺らしちくるるもん。ひっそりこん唄がち 思っていた矢先に 指名されたとなると なかなかやるわいち思う。『先生この曲は』『この曲もよい歌ですね』 そういわるともう参加した かいを満喫そしてその曲が みんなで唄ってくれる。

合唱じあってん 歌ん音色にや変わりねえ いやむしろ親近感が 湧いちくるもん。まるで自分が指導員と リードした教室の素晴らしい旋律が 余韻残して終ってん いつまでん脳裏に残る未練な今日ん教室。『あー仲間に入っちよかった』ち いつまでん今日ん 教室が回想されよった。

一途になっちみると 覚えも早えし そんな貴重な時間の やりくりも出来る執念に 早変わりするもん。薄化粧でん生きがいになる時 女性は輝くもん それが母性本能でんあろう。唄った時刺激された 脳細胞も若さが甦り 潤いんある声に変わると 笑顔じ『あなた上手な唄い方』ち 言われる刹那 全身に躍動がピリット 感触を表すのん 体調がついち行く 努力ん賜物かん 知れんごたるんも 参加した儲けものかん。

僅か5ヶ月じゃつたに 心身が生き生きしよるち 娘かるセガワレタが 人間努力する事じ 心も豊かになる妙薬も 手中に納めた宝物でんありそうじゃ。『こん次も申し込みしゅうえ』『じゃな 又お願いしましゅうな』 今日も日ざしが暖かえ。



## 美化執念が健康にも

どげな天気じあってん 早朝かる空き缶を拾っち 小学校ん活動にそっと加勢する。『寒いにゆう続くなぁ』ち 行きずりんしに声かけらるりゃ それが又励みにもなる。旦那が定年退職 しちかる故郷に帰ったらもう 孫たちが世話になっちよる 近所にある学校ん 『空き缶回収で活動資金』運動に 『役に立つんならすりゃいい』 健康じ留守あけた故郷に 何かお役にと思いよった 旦那も背中を押した。

空き缶入れまじあるに そこにゃ入れんじポイ。かち思うと歩きながら飲むしが いいぐれた所いポイ。塀ん上にオイチャンナ まぁいいほうじ ご丁寧に蓋をした下水ん 隙間にセリ込む 念入りんしもあっち 目につくと『ああもう』 愚痴は出さんまじも 力がつい入っち『ここまじ落ちた 人間の道徳』が 嘆かるる。

雨ん朝どま水がいっぱい入った 缶がひらいに来るんをまっちょる。いちいち水をこぼしち 車に積みこむと今朝も 案外多いんが妙に 嬉しさと悲しさとが交差しち 戦後ん道徳抜きん 人づくり不足が不安にもなる。一回りしち帰ると 『雨ん日はヨコヤイニ』ち 心配しんばいしちくるるが これも趣味になったごたる。

近所にゃ同級生も多い ときたまグアイガ悪いち きくともうじっとシチョレン。食事かたずけん後に 『ちょいと覗いち見るきな』 旦那に言うて 『早う行っちゃれ 心細かろうき』 快ゆう言われるるともう ソッココにしち 行くと起きちゃおるが 顔色がやっぱマトモジャネエ。

アタデ悪うなったんか お医者にもまだんごたる。今日はお医者じ『診ちもらいよ ヒズナルト苦をみるで』 勧めたら 着替ゆうちするき加勢する。



病院から帰ったら 『ゆっくり養生すりゃ すぐ治る』ち言われたごたる。『いっとき寝ちよりよ 又来るき。☞安心したんか布団の中じ友達ん 友情に感謝ん夢を 結んだごたるき。近所ん友達にも連絡しち みんなずれ顔が揃うと 『すまんあ』ち起きゅどちするき押さえつくるごつしち 皆んなが茶のみん 世話しよるなんか やっぱ同級生じゃなあ。

あれからフガユウ 早かったき元気になった。『加勢するき』『いんげいいんで うっとうがん仕事のがのうなる』『そげまじゃしきらんき』 大声が響くごつ 笑いこけたが 年甲斐もねえごたる姿に 思わず裾先う整えた。『チャーりゃ あんた色気が』それがおかしいんか 又どっと大笑い。

今日は『暑いにもうやめよ』『うんここまじじ帰ろうち思いよった』 腰をあげち車を 押すそん姿は こん頃チット 腰が曲がったごたる。けんど『缶ひらいは 健康ん元ち思うわ』と初志貫徹ん気持ちは 変わらんじゃろう。『今日は目医者に行くき 帰ちかかるにするき』 バスを待つ薄化粧ん顔も やっぱチットズツ 高齢者独特ん顔になった。

じゃが子どもたちかる 『ばあちゃん いつもありがとう』と声かれらると なんか励まされる そげなかけ声は 宝物であるち早起きがもう 自然体になっちよる。時にゃわざわざ持参しち くるるしもあるき まあ当分は『やめられんな』 自分に応援しちくるる人たちん 気持ちに対してん やり抜きたい意欲は まだまだ血気盛んでんある。

『お早うございます』 学校行кин生徒が 声をかけて追い抜くが 『行っておいで』 笑顔で送りながら そこにコロンだ缶一つに 『おはよう』と 声かけしち拾いあげた。『あんたに出会ってうれしいなあ』 そん顔は値千金のような……。



方言の説明 ◎◎◎ 女性の底力の分から

- 29 P そげな…そんな。ごつ…ように。そげ…そんな。行くしゅ  
う…行く人たちを。ぞろぞろ…連れなつて。じゃが…です  
が。ごたる…ようです。となりゃここじ…それならばここ  
で。だまし…急に。ちーた…ついた。いいえなこと…いえ  
いえとんでもない。そげおらん…そんなにいない。
- 30 P 全体…心身ともに。ひっそり…実は。ごたるもん…よう  
です。セガワレタガ…冷やかされたが。
- 31 P どげな…どうです。行きずりん…行く人たちの。しちかる  
…すませて。かちおもうと…そうかと思えば。オイチャン  
ナ…おいてあるのは。こぼしち…水切りして。ヨコヤイイ  
休めばいい。グアイガ…体調が悪く。シチョレン…してお  
れない。ソッココ…さっとかたづけ。アタデ…急に。ヒズ  
ナルト…大事になると。
- 32 P 夢を結んだ…よく眠つた。フガユウ…運よく。うんここま  
じじ…ここまででよかつた。チットズツ…少しずつ。わざ  
わざ…無理をしてもらつて。

★★★ されど強い女性の底力 ★★★

夜中に半鐘が鳴りて一た 飛びおけた親父が目をコスリ どこか  
気になるき窓を開けた。とすぐ目の前ん家じ煙りが 『こりゃ大事  
じゃ早う『大事な物う持ち 外にでらにゃ火傷するど』 『慌て  
ち怪我せんごつ確かめち 外に飛び出すと まいっぺん家を見た。  
親父はどうやら『位牌と書類入れ』を 小脇抱えちよるごたる。き  
安心した嫁じよわ 又飛び込むと 米俵をかむぎあぐると 飛び出  
ち石垣ん向こうに投げた。早業じゃきあんまり 誰も気がつかんじ  
ゃつたごたる。火がまものう消えたき やれやれ騒がしい火事じゃ  
が 大事ならんじ済んだわい。

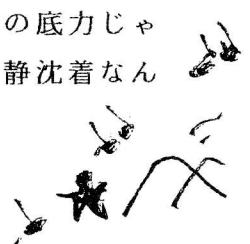
いい按配にボヤ程度じ無事 火は消し止めたき えーと落ち着いたち思うたら もうぼちぼち シラミはじめよった。嫁じよわ親父に『ちょうと米を かたげち帰って』 だまし言うもんじゃき 火事騒動んなかめ 狐にでんつままれたかち 思うた。じやが『これこれしかしか』 親父はケタマガッチ しもうた。

『何や おまえそげんこつ しでかしたんか』 それもそんはず ヨロケちばかり 想いよったにそげな 力がどこかる出たんじゃろうか。石垣ん向こうにコスト 迎えにこんき米俵がもうあくびうしよる。『すまんすまんのう』 嬉しさにこげんこつ 言う と かむぎあげち帰っち来た。

それにしてんまゝ ゆうかたげたもんじゃのう。呆れたごたる顔じ見直したが そりゃもう『頑張った嬉しい』 気持ちん現れじゃつたんじゃろう。『おおきにおおきに』 そげ一言うと涙がポトリ それもラッキョウごたる 大粒じゃつたらしい。火元んしもお詫びに歩いたが 嫁じょうの力話しゃ 時の間に広がった。

△△ 方言説明 33p⇒34P

こりゃー大事じゃ…これは大切なものです。やけど…火によって出来た傷。ちよるごたる…そのようです。嫁じょう…奥様、女房。かむぎあげち…抱えて方に担いだ。まものう…そのうちに。シラミハジル…夜明けになって。つままれたかち…騙されたのではと。ケタマガッチ…おおぎょうに驚いて。そげんこつ…そんなことを。しでかしたんか…したのでしょうか。そげな…そんな。どっかるでたんか…どこからでたのでしょうか。ごたる…よゆうな。時の間に…あっと思う間に。※ 女性の底力じゃ何事でん 役立つ例が多いが火災ん時の 冷静沈着なんかもやっぱ 素晴らしいごたるなえ。





豐收



## 故郷の味『魚寿司』

魚の匂いが好かんしが多いが 臭み取りにゃ塩に漬け込む又は酢に 漬け込むなんかがあるごたる。塩に漬け込むな 関かる魚を 買うち帰る時 あっちじ塩に漬け込み そんままぶらさげち 帰りち一たら晩方まじ そんまましちょきゃ こんだ塩抜きしたら 塩分も臭みもいっしょに 抜けちよつたらしい。

ちった形が軟らしゅなったが これにママを抱かせ ぐるりを青しそに巻くと ほらみよそう出来たで。もう醤油つけんでん ウメーキ笑顔がなえ 嬉しいごたる。酢に浸けたんでん 酢抜きさえユウスリヤ もう東京じ食べよるごつ おいしいお寿司が できあがった。

塩加減やら酢加減が一番 問題じゃろうが そん量と時間なんかが 好みもあろうが 自分じ作った『お手製』にゃ どげ言うてん愛情も 湧くじゃろうき おいしさも格別になるもんで。簡単に小魚なんかじ 作るにゃもう何も構わんじ 作っち食ぶるき 目先ん変わった食べ物にゃ 思わぬ愛着もわくもん。

キャベツにしてん 青しそにしてん 香りが食欲もそそち 旨さをひと味違うもんに しちもくるる。米も重要な鍵になるけど 本当ん食通ならあんまり いろいろ言わんじ 作った人ん 気持ち考えたなら おいしさも倍にもなりそう。鮮度んいい魚なら あなたん腕ん見せどころ。

『お代わりゃねえんな』『もう食べたんな ふんと』 嬉しい手がハゲシュ動く台所 香りが仄かに漂う夕暮れ。ここにも家族ん笑顔が 満ちあふれち 久しぶりん魚寿司ん お代りんの声がいっつまでん つじいちょるごたる。けんど作るしにシチミリヤ コレモイイモン。



## ゴボウニンジン、材料ん『キンピラ』『ケンチン』

おおもと諸行修業ん僧が 手早う栄養価もある 身近い場所じ手にはいる材料を 使う事じ賄う副菜でんある。油を使う中国ん伝統んごたる こん料理にゃ香りが 食欲もそそちくるるき 善し悪しよりも食べる 体力づくりが厳しい 修行に打ち勝つもんになつたんじゃろう。

いためた食材は 歯ごたえも又心くばり 歯が丈夫なシタチゃギシギシ 食べらるる食感 は 抜群じゃろうな。仕上げにゴマが入ると 煎りごまならそん香りは まさに天下逸品。しあげに黒、紅、とは反対色ん グリー、キイロが入ると なおさら こりゃーうまそうになる。

こげな食材に追加しち 汁ものにしあげるんが 『ケンチン』地方独特な組合せもあるが 里芋、豆腐、が入るんも 隣同士。寒い冬空でん 『ふうふう頂く』と 全身が暖めらるるき 特に寒い時期にゃ 歓迎さるるんも 人ん親人ん子じゃろう。味付けは厳密にゃ難しいが そりゃもう抜きにした 頂く食べ物ん心理が 整ノヤいいじゃねえ。

『今日は忙しかったき ケンチンで』 留守番のバアチャンが 曲がった 腰う頑張っち シコシタ 夕飯んケンチン汁。文句は言わんけんど あり合わせん具材が なんこんじゃる ゴッチャ煮じゃねえ。『それでん食べらるりゃなえ バアチャン』 笑顔が答えになっち 帰っちきたのん お互いに苦勞を讃えあう 心んお接待じゃろう。

『こやうめーな。だしがユウ効いちよる』 『ジャろうイリコン頭が 残ちよつたき サゼいれたんで』 物たぼいんいい バアチャンのことじゃ そん気持ちゆう解るわなえ。



『シイタケ、コブ、イリコ』は どげなったん

『ばぁちゃん ゆうべ言いよった ほかん材料は使わんのじゃな  
ぁ』『あれな あげなしゃ ダシ取りしたあたー 引き上げち煮物  
に使うごつ こっち取っちゃう』 やっぱ『亀ん甲より年ん功じゃ  
なぁ』『そうで伊達に年は とらんで』 『じゃなぁ幾つになった  
んかなぁ』『たった95かな』

こげなふうじ ダシ取りした シイタケ、コブ、イリコは 煮物  
に使うき だいこん、れんこん、なんと並ぶると 品がいいじゃろ  
う。ダシ取ったき 味が抜けたごたるけんど そげーねえんで。  
こんだ 卵焼き、ツキアゲ、生んまま使う飾り、こげなんが 一緒  
になると そりゃもう賑やか せせろしいごたる。

ダシ取りした分は使い勝手もいい がいとう作っち たぼうちよ  
くと こんだこげな上品な 吸い物んも出来るんで。『え なにな  
になん』『知りてーかえ』『教えよ 内緒じ覚えちよきてーき』  
『あんたも 料理好きじゃき 熱心じゃな』 そげんこたー ねえ  
けんど 知っちょつち 損なせんし 知ったかぶりゃ げのげじゃ  
きな』『えらいなぁ てーげんしが 知ったかぶりが 多いに』

人間は知らんことが 多いんがあたりまえ。じゃがゆう 知った  
がぶりが多いんが 世の中である。調子ゆう知ったふりしち タ  
ヘラク言いよる そげなしがおるが しゃべりよっら 行きつまっ  
ちドンコンナラン ゴチナッタ。イイ按配に詳しい 人が側におっ  
ち カバーしちくれたき 恥がばんじつたが なえふんと。

帰りがけに最敬礼しち お詫びしよったが 聞くな恥じならんが  
知ったふりゃ 思わん恥さらしになっちくる。こんしも自分だけ  
ち 天狗になったんじゃろうが お宛違いん赤天狗。穴がありゃ入  
りたかったじゃろう。

## 『落としダンゴン味恋し』

そんダシ汁に米の粉ダンゴを さっといれると うきあがったらもう 出来ました。ダシは充分でちよるが 飾りにシイタケ ニンジン ユズンカワ セリ ミツバ なんかが添えると 上品な吸い物に仕上がる。卵がはいると こりゃまた いい組合せ。急な来客 ちょこっと嫁ご見に来た そげな時にやすぐ まにあう貴重品。

米の粉だんごも 日頃から準備ん 心くばりはいいな。もちっとほしい』ち 相手に思わせる数。祝い事なら丸く大きめ 反対ん時にゃ細長いもの、好きと解ちよる そげな時は 3, 5ん小型をいれると 笑顔がもう広がる。相談ごたーすぐ解決にも。『こんもでん米ん粉だんご』ち 昔かる縁起もんでんある。

米ん粉ダンゴを ゆがいち引き上げ そんまま冷やす。洗わないが鍵。水分が飛んだら きなこにまぶした 米だんごにゃ見た目 嗅覚かる来るきなこ そしち食べる喉ごし 三拍子揃うた故郷ん味。節句や盆ににも作るが 季節はずれん お茶受けにも結構人気がある。砂糖加えも好みで。

乾燥したしいたけは ひと晩水につけておくと ダシ分がでてそれをうらごしすれば そんままに使える。上品な和食には 欠かせん和食のだし じゃき保存食としても 季節に関係のう使える お利口さんでんある。乾燥したものを 小刻みして保存すれば 火急にも間に合い いろんな料理にも 対応できる業物。

人間の食欲には 色や香りや味があるが ほかんものと同取りあわせじ それぞれの特性も 生かさるるき うまく利用する事じ 料理上手な貴女の 技がさらに アップされそうです。見て食ぶる料理は 香りや味と共にメイコンビです。



- 35 P なんかがあるごたる…なにかがありそうで。あっちじ…あちらで。こんだに…この次に。ママ…飯。ぐるりを…周りを。ほらみよそう…それみなさい。ウメーキ…おいしいので。ユウスリヤ…よくすれば。どげ…どんなに。しちもくるる…してもくれます。ふんと…ほんとに。ハゲシュ…いそいで激しく。シチミリヤ…とてみると。
- 36 P シタシャ…したひとたちは。ギシギシ…しんけんに。グリ…周りに。いいじゃねえ…よいのでは。シコンタ…準備して。なんこんじゃる…手早くいれてあげる。ゴッチャニ…いろいろいれて煮る。うめーなゝ…おいしいのは。ジャロウ…でしょう。サゼイレチ…手早く入れて。物たぼい…物を大切に辛抱する。
- 37 P あげなしゃー…あんなひとたちは。たんに…ほんの。こげなふうじ…このような事で。こんだ…次は。せせろしい…うるさいほど。なになになんな…つぎつぎに聞いたがる。げのげ…最低な。てーげんしが…大概の人が。じゃがゆう…それでも本当にまゝ。ドンコンナラン…どうにもならない。
- 38 P こんやまた…今晚また。嫁ご見…年頃の娘がいる家の側にそれとなく尋ねてくる。3, 5ん…奇数が縁起よいとそろえる。

故郷ん料理食べ物にゃ 素朴な味がこめらるる。見た目にも美といんがイケンド 時にゃみかけんわりに うめ一物もあっち見なおさるる。手間、暇かけち作るもんにゃ 妙なる味もあるもんじ 指定さるることもある。『あっこんバアサンの おはぎゃ一味ちがうなえ』 『おんしの作った豆腐は なんかうメーナー不思議に』 ここまじくるともう よばれちみてーが 人情じゃろう。

## 『宇曾ん大根漬け』

修験者が峰を渡る足音と 木木をゆらす風の音は 聞き慣れた人にはよいが 慣れない人には異常に耳に入るだろう。一夜の仮寝を求めてワラジを脱いだ 旅人が夜半に目を覚ますと奥の土間で親娘が 『夜なべ仕事』を続けている。山仕事の縄をナウ手は荒れ シワが並び冷たい夜風が隙間を すり抜けて大根の冷たさは 一層厳しいけれど母も娘も 頬赤めて励む姿は 旅人には慈母のように受け取れる。

一膳のカユと手塩皿に盛られた 大根漬けのその色と香りそして 味がこの人たちの情を素直に 伝えてくれた。この旅人には生涯忘れる事のできない 思いだったのだろう。旅立ちの朝に包んでくれた アワのおにぎり飯に 大根漬けの取り合わせ。丁寧に頭を下げると『気をつけて行ってください』 可愛い口もとから弾む声で 差し出してくれた弁当包み。『おん身大切に』と 受け取ると 『うっとうたちは大丈夫 ご機嫌よう』 ……見上げた宇曾の峰に もう修験者の白衣姿が木の間がくれに 眺められる。

旅人は感謝しつつ去った 今も残る『アワガラ』を 入れて漬ける大根漬けの風習は その昔から宇曾の里の味として 生まれ育ったもの。旅人が『トキ』を開いた時 あの母親や娘を忍びながらきつと 宇曾のひとときを思い出すのだろう。優しい人の心にふれた思い出の 一時でもあった。

天狗のようにピラリ飛ぶ松のこずえ 岩陰から咄嗟に現れる姿に 穏やかな故郷があるのも 平和があるからか。人の心の豊かさがあるならば 悪人も病気もないのかも知れない。そこに人間の真心が結びあっているから。大根漬けをかむ音が静かな森をバックに 聞こえてくるような晴れた日。





野津原方言單語  
山形





ニガル……荷物が軽い、嫌いな言い方する、苦味が強い味付け。  
 ニガリュ……豆腐作りの凝固財、嫌いな言葉をよく使う癖。  
 ニガクチャ……嫌いな言葉で文句が多い、口汚い言葉で嫌われる。  
 ニガテンアル……相手が苦手な仲間、相性が悪くて、虫が合わない。  
 ニガアリャ……荷があるのなら、荷物があれば加勢するから。  
 ニカイカル……二階からの呼びかけ、二階か合図している。  
 ニガチュ……苦手はいるもの、苦手は早めに征伐、難的は早めに。  
 ニガセ……逃がして、よそに追放する、邪魔は排除して。  
 ニキヤ……にくいのか、憎いものは早く始末を、難敵は早めに。  
 ニキケンド……憎いけれど使いようでは、使いようでは。

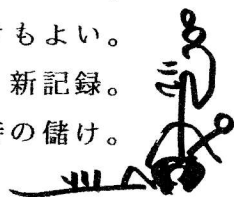
ニギー……逃げなさい、逃げたが勝ち、逃げたが無難だから。  
 ニキーナ……にくいけれど、にくいがいい面もある、言い聞かせて。  
 ニキバツカリ……憎いばかりで、すべてが憎いもので。  
 ニギリコム……欲張りの悪い癖、あれだから銭がたまる。  
 ニギリクウジ……握り込んだらもう、よくもそこまでなら。  
 ニギランカ……にぎりなさい、にぎったら満足したか、幸せ顔で。  
 ニギリシコ……にぎれるだけ、にぎれる程全部、欲張りの手太い。  
 ニギユウゴタル……逃げそうだから、にげたら大事に、逃がすな。  
 ニギリブゲン……握りこんだら出さない、出すのがきらいな。  
 ニギリモウサン……握り切れないほど大きい、これほどとは。

ニギニギ……幼児の手握り、遊びのにぎりあい、子どもの遊び。  
 ニキーケンド……憎いけれど、真剣憎いのだが、腹のたつほど。  
 ニギリキンタマ……にぎりこんだら放さない、よくばりも最高な。  
 ニキー……憎いばかり、本当に憎くて、憎すぎるほどまで。  
 ニギャケーノ……賑やかすぎる、うるさいほど賑やか、静かに。  
 ニキーコデン……憎い子ほどかわいい、憎さがかawaiiさにも。  
 ニキシコ……憎いほどに、憎すぎるとなでか反対に、憎すぎがまた。

に…にぎっちょけ…握っていなさい、握っていたら、握れば。  
にくでん…憎くでも、憎んでも、憎んだとしても。  
にくぶろ…性器にはいった喜び、予想以上の感触だろう。  
にくんじよーじ…肉が多く入った料理、思わぬご馳走。  
にくたれぐち…憎い言葉で叱責する、嫌われ者の捨て言葉。  
にくたらしい…憎くて仕方ない状態、憎さがつのる有様。  
にくうじ…憎さがつのは、憎さに興奮する状態。  
にくしいけんど…憎さが募る思いの、憎い気持ちが充満。  
にくんのか…逃げても無意味な状態、逃げたとていずれは。  
にくめんき…憎めないいじらしさ、憎めぬだけにかわいい。

にくぶらいい…性器に親しむ喜びは、だから円満なのか。  
にくりゃちーちく…逃げても追っかける宿命、逃げても。  
にくんなおいかき…逃げたら追いかけて、どこまでも宿敵。  
にげぐち…旨い具合に言葉は使うが、罷り通らぬ時もある。  
にげごし…逃げるには理由が成り立たねば、無意味な抵抗。  
にげめー…逃げなくてもそれなりに、逃げては惨めになる。  
にげんか…逃げなさい、にげて助かれば、どちらを選ぶか。  
にげとー…逃げたくても、正しい方向に向かうが得。  
にげちょけ…逃げたが勝ちならそれも、にげて倍損もある。  
にげあしゃはえー…逃げ足の早さは損か得か、逃げた損も。

にげじよず…逃げるのが得策か、謝りがとくなのか。  
にげぐちとうらん…逃げ口上は通らない、にげてマイナス。  
にげごしやいい…品の悪い結末にならぬよう、負けるは勝。  
にげかわすんな…逃げられますか、にげたとしても結果は。  
にげよせん…逃げられないのでは、謝る勇気も時には。  
にげよる…逃げているが果たして、謝るのも手の内では。  
にげちょきゃ…逃げていれば得か損か、時には負けもよい。  
にけんつーだ…高くとんだ、すばらしい記録が、新記録。  
にけんぶんもろうた…隣のぶんまで頂く、お接待の儲け。



に ニゴガユ……二合なら粥が出来る、一人分が二合ありゃいい。

ニゴリメーキ……濁らないでしょうから、濁らないと思う。  
ニコンジ……煮込みましたので、煮込めば味も染みこむ。  
ニゴリャコス……濁ればこそ、濁るならば何かいる証拠。  
ニゴッチョル…濁っているのでも少し待つ、濁りが澄むまで。  
ニゴラシイ…濁ってからが効果もある、濁れば混ぜてもよい。  
ニゴージ……苦くてとてまたべられない、苦いから美味しい。  
ニゴデンイイ……苦くてこそ味がある、苦いのが特徴だから。  
ニゴラニャ…濁らないといっているのか不明、濁れば生きている証。  
ニコニコガオジイ…笑顔がかえって怖い、笑顔に油断は禁物。

ニゴジュ……算数の式の呼称、まったく参って降参する。  
ニゴッテン…濁っていても心配ない、濁っていれば安心して。  
ニコリトン……笑顔を見せない面構え、怖さが最高で。  
ニゴッチョル…濁っていればきつといる、濁り水には生き物。  
ニザト…三温糖の呼び名、味が素朴で風味がよい、赤茶ヶ糖。  
ニザマシ……煮た後冷やした、煮てから冷やして保存した。  
ニザシャウメー……煮出したら妙味が出る、煮出しに隠し味。  
ニザマシャコマル…煮えて覚ますと味が逃げる、熱いうちに。  
ニザシャイイコチ……煮出した味は奥深い、保存が効くので。  
ニザチャウメー…煮てすぐは美味しいもの、炊きたてが美味。

ニジャ……虹は、虹が橋をかけて見事、美しい雨後の虹。  
ニシメンゴツ……煮染めた料理には、格別な味に仕上がる。  
ニジクリャ……すりつけると、塗つけると、べったり塗って。  
ニジラダシナル……煮出した汁は保存で使える、保存調味料。  
ニジミデタ…滲んででると奥ゆかしい味、絞り出した隠し味。  
ニジクリグルリ…回り一面に塗って料理を作る、こまやかな。  
ニジュミヨ…虹を見なさい素晴らしい、美しい虹が橋かけて。  
ニシミユー……煮しめを試食して、煮しめが完成しましたが。

に ニズムリヤ…煮詰めてしまう、完全に煮詰める、完成品です。  
ニズナ…牛馬の使い綱、荷物にかける綱、農耕作業に使う綱。  
ニズノ……荷綱を、荷物運びに使う綱を、農耕に使う綱を。  
ニセタモンジャ…似ているがすぐわかる、似ているがにせ物。  
ニゼータ…煮出して味の元を作る、煮出してエキスが出来た。  
ニセモンヌ…にせ物があるが、にせ物に用心を、にせ物危険。  
ニセテンワカル…似せてもすぐわかる、素人はにせ物は無理。  
ニセチョキヤ……似せておけば間にあう、にせ物に騙される。  
ニゼータカス……煮出した粕は料理の逸品に、味が絶妙に。  
ニセメ……似せても無理です、にせものはすぐわかる。

ニセン……似せないから、二銭…昔の通貨、似せないの。  
ニセチョル…似せているが、すぐぼろが出る、見つかるのも。  
ニソーニラン…似ているようで出来ないもの、素人は無理。  
ニソクン……二足の草履、代えの準備、非常に備えて。  
ニソコノーチ……煮えたが失敗した、煮るのをしっばいした。  
ニタラシュ……煮えてトロリをぬりつける、甘辛い味の追加。  
ニタモンヌ……煮たものを別に利用、煮てから突き合わせに。  
ニタニタ……煮えた煮えました、にえたので試食を、煮えた。  
ニタッチ……煮え立ったので次の手、にたったタイミング。  
ニタギル……煮えてたぎる高温、次の料理の準備完了。

ニタキン……煮たり炊いたり料理、煮えた炊けたは極意。  
ニタカヨッタカ…煮えましたかよりましたか、料理教室奥義。  
ニタカリヤキー……煮たいのならいらっしゃい、煮れば来て。  
ニタランタニン…似てない他人ですから、似た他人もいるが。  
ニタモン……煮たもの、似たもの、間違いそうによく似る。  
ニタッテン……煮立っているが入れるものの、順序が肝心。  
ニタラン……煮たらないと失格です、煮る加減の難しさ。  
ニタッチョル…煮立っている時の準備、手順が仕上がりにも。  
ニタンカヤ……煮たのですか、にたにしては少し、怪しい味。





に ニチョリャコス…似ていればこそ、煮ておけば、煮たので。  
ニチキタ…似ている、煮てきたので、煮ておいたから。  
ニチョカニャ…煮ておかないと、煮てあればすぐ役立つ。  
ニチョルキに…似ているからか、煮ていますから、煮てる。  
ニチョツテン…似ていても、煮てはいるけれど、煮ても。  
ニチョランジ…似ていないので、煮ていませんくせに。  
ニチョンニ…似ているのに、煮ているのを隠して、内緒に。  
ニチョルデに…似ていますよ、煮ているから、そっくりで。  
ニチャンナ…煮てあげたら、代わりに調理してあげたら。  
ニチクレナァ…煮てくださいますか、煮るのは苦手で。

ニチシモッタ…煮てしまったが、煮料理に使ったが。  
ニチコス…煮ていたから間にあう、似ているのでよかった。  
ニチャラン…煮てあげないから、煮る加勢はしないから。  
ニチャワリイカ…煮ていたのはご免、似ていては悪い。  
ニチャルド…煮てあげましょう、空似になってもよいから。  
ニチャクレン…煮てはくれないですか、似ては迷惑だから。  
ニチャクチャ…煮ては食っては暴食、後先考えずに。  
ニチャンナイイガ…煮るのはよいが、煮る加勢はよいが。  
ニチャオクガ…煮ておくのは簡単だが、覚えるが先決だよ。  
ニチャツタンカ…煮てあげたのですか、甘やかしも程度物。

ニツケモ…煮付けの料理も難しい、煮付けの妙味は。  
ニツブシャ…煮でつぶすこつが、煮料理失敗の利用方も。  
ニツメチ…煮詰め料理の至難、味の染み込みが難点。  
ニツマッチ…煮詰まった時の所作が、程よい料理の極意。  
ニツマリャ…煮詰まった時の処理、食べ頃の仕上がりが。  
ニツケ…珍味な植物のエキス、香辛料の使い分け、高気品。  
ニツガンゴツ…煮つかせない料理上手、紙一重の極秘味。  
ニツケツボール…けん玉の呼び名、地域他方でも違うが。  
ニツケシ…ニツケ利用の菓子や食べ物、駄菓子やなどに。

に ニデジルンアジ……煮出した極秘な味、手が覚えた妙なる味。  
ニテンイインカ……煮てもいいのですか、似てもよいですか。  
ニテンウメー……煮ても美味しく食べられる。生でも煮ても。  
ニテンイイ……煮ても美味しい食べ物、和洋どちらにも使える。  
ニテルワリニャ……似ているわりにを現在風、煮ているのに。  
ニテルニキラワルル……似ていても嫌われる損な立場、二物無。  
ニテクレ……煮てくれないかなぁ、煮てほしいのですが。  
ニドデモドル……再び縁がなく帰る、人生紆余曲折。  
ニドマジモ……再びな災難だって人生双六、試練はいつでも。  
ニドデマ……手数がかかる難物もある、最初の説明か。

ニトリカタ……荷物の引き取り方、荷物が無事に着いた。  
ニドマシミー……荷物はしっかり固定して、荷物の固定は大事。  
ニドナリャ……二度も実る野菜も多い、性質がそうさせる。  
ニトロケ……煮ている間にとろりと仕上がりに、口当たりよい。  
ニドンドンナ……二度も失敗する性格、同じ石に躓かぬよう。  
ニナオー……荷物をしぼる綱、荷物の固定は信頼にも。  
ニナラシ……荷物を固定してもさらに確認。しっかり固定。  
ニナンナチュウニ……煮ないでよいと言うに、いらぬ世話する。  
ニナイボウ……担ぎ棒の用具、荷運びに使う棒。  
ニナワヒキ……荷縄を作るよりいれ作業、新しい煮縄づくり。

ニナンナ……煮なくてもよいから、忙しい失敗は困るから。  
ニニスリャ……荷物にすれば、仕事も出来て助かる。  
ニニナリャ……荷物になれば多くの人たちも、荷物なら加勢。  
ニニシチシマウ……荷物にして皆の仕事に、仕事が出来たから。  
ニニナル……荷物にもなるので加勢を、おくってあげよう。  
ニニ……荷物に、邪魔になるので、荷物の仕事が出来た。  
ニニャイイ……煮にはよい材料だから、荷物には格好の太さ。  
ニニニャニアウ……煮るのならいい材料、出来が楽しみな。  
ニニキキテー……煮にくいので来て加勢して、難物料理加勢を。



に ニネンゴナラ……二年たったのなら、二年過ぎたものなら。  
ニネンゴハコンメー……二年過ぎても小さい、二年育つたが。  
ニネンゴシン……二年過ぎてもまだまだ、二年続きの不良。  
ニネンブリジ……二年過ぎてみたが、久しぶりの再会ですが。  
ニノクチャデラン……あきれて言う気力もなくなる、返事に。  
ニノウイ……荷物の上に乗せたら、荷物の上なら乗せられる。  
ニノカザリ……荷物の飾り物に、荷物に飾りをつけて。  
ニノナケ……荷物の中に入れても、荷物の中に積んだら。  
ニノクチつ……次の返答に困る、選別機械の二番目の場所。  
ニバショ……荷馬車を、荷物を運ぶ馬車の通称、荷物の置き場。

ニバラシャ……馬車の台を長く使う、馬車の後ろ輪を外し使う。  
ニバジャキ……荷物の場所だから、荷物をおく場所だから。  
ニバンゴ……二番目に生まれた雛、二番目の子。  
ニバンナ……二番目は、二等賞は、二番目に到着は。  
ニビカリャ……鈍い性格の、動作が鈍いが、よい点もある。  
ニビヤツジャ……鈍いけれど用心する、失敗が少ない。  
ニビュウデン……にぶいからと侮られない、それなりのよさも。  
ニビーナワカル……鈍い性格の利用方も、鈍い性格の利点も。  
ニビーコタ……鈍いと言っても失敗は少ない、慌てない利点。  
ニビーノン……鈍いからと慌てた人より早い時も、用心は確実。

ニビーヤツ……鈍い性格で損をするが、慌てて失敗する人も。  
ニブナリャ……鈍くなると用心をする、入念さは確実に。  
ニブデン……鈍くても確実な方法、負けるが勝ちもある。  
ニブアリャ……鈍いなら確実にして、早いがいとは限らぬ。  
ニブナッチ……鈍くなった年のせい、失敗して早いよりも。  
ニブッチ……鈍った能力は無理や焦らぬ用心、確実こそ大事。  
ニホデン……前に二歩でて、一步よりも増し、確実な歩みを。  
ニホマジヤ……二歩まで歩けたなら、明日はさらに努力を。  
ニマイジト……調子のよい事だけでは、裏表の熱弁は無意味。

に ニマメニャ……………煮た豆には、煮た豆の美味しそうな色。  
ニマミユ…煮た豆を食べてみて、煮豆の味はいかがでしょう。  
ニメータムゲネエ……………二枚とはあまりに、煮ないなど悲しい。  
ニメーチ……………二枚とはなで、煮ないと思っていたけれど。  
ニメー……………二枚、なで二枚、煮ないことにしました、煮ません。  
ニモライ…荷物を受取に行く、荷物を運んで帰る、荷物受理、  
ニモノウナッタ……………荷物もなくなったので、荷物運び終了。  
ニモツニャ……………荷物には大切な道具が、荷物は結婚お祝品。  
ニモター……………荷物は届けました、荷物は引き受けました。  
ニモツデン……………荷物でも運んで、荷物運びの手伝いを。

ニモツンウイ…荷物の上に花束が、荷物の上には子供も乗り。  
ニモン……………煮たもので、似たもの夫婦、昔の通過二文銭。  
ニモコモ……………荷物も子供も来たよ、荷物も子供も苦にならず。  
ニヤスケ……………卑劣な格好の、不愉快な人物に出会う。  
ニヤンコ……………愛玩用の猫、猫、飼い猫、ペットの猫。  
ニヤコージ……………賑やかくて、騒々しいまでの、祭り盛會に。  
ニユーチミレ……………匂ってみると、においが何とも、匂い香水。  
ニユートチコミユル……………匂うと近く感じるのも、香ぎ慣れた。  
ニユーチミヨ…匂って確認すれば、香りに覚えがあるのでは。  
ニユルド……………煮えてきましたよ、煮えたようで頂きます。

ニユーカ……………煮えますか、煮えたようで、煮えたのですから。  
ニユートデン…入湯に疲れほくしに、心身のリフレッシュに。  
ニユルゴタル……………煮えたようです、にえたのなら頂きます。  
ニユート……………煮えたと思うが、煮えても煮えなくても勝手に。  
ニユーム……………アルミ、貴金属、軽くて利便性が大きい。  
ニョロット……………突然目の前に、吃驚するようなスタイルで。  
ニョロニョロ……………滑るように近づいて、左右にゆらゆらして。  
ニョッタ……………煮ていました、煮ていたら突然の来訪で。  
ニョレタ……………煮てれよれになった、煮てやわらかくなって。



方言でん普通用語でん 耳からだけじゃ解らん 意味が多いことがあるもん。ましてや方言となりゃ尚更。ここまじ出た方言じ『ニタ』ん場合さて『似た』『煮た』 どっちじゃろうか……後先ん言葉によっち スグサマ 判読する素晴らしさ。生活用語としち 使い慣れた曲芸んごたる。

煮たん場合でん後に続く 字がまた広がるもん。

煮たんで 煮たき 煮たんなら 煮たごたる 煮たらしい 煮たち言う 煮たくしい 煮たんと 煮たそうな 煮たちゅうてん

似たんで 似たき 似たんなら 似たごたる 似たらしい 似たち言う 似たくしい 似たんと 似たそうな 似たちゅうてん

煮たんな 煮たたら 煮たこち 煮たあと 煮たりゃ 煮たてん 煮たりしち 煮たけんど 煮たさにゃ 煮たしが 煮たすぐあと 煮たせ 煮たり 煮たまじゃ 煮たこちしちよけ 煮たなほんどんとうか 煮たはだねえ 煮たぬみたか 煮た煮た言うな

上手に使い分けち 生活用語にしたんが そんな使う時なっち 心が入るとまた デーぶん違う聞こえ 響きにもなるもん。使う人聞く人によってん 違うこともあるごたる。それが方言の面白い面 難しい面にもなるんじゃろう。じゃが言葉になっち やっぱ心かついち行くきこす 伝わり相手の心も 染みこんじ行くごたるんが 方言かん知れん。

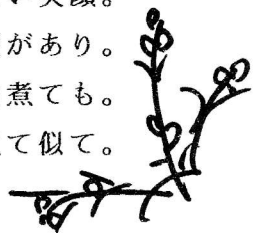
煮た、似た、こん二つでんこげー 別れたひろがりかある 口から出る時は よくよく考えんと トッペモネエ 事になることになることもあるき 難しいが出た言葉は 引っ込まれんだけに やっぱ 言葉使いは丁寧が いいかん知れんな。ち言うてん上品ぶるこたねえけんども……。



に ニヨケヤ…煮ていなさいよ、煮ていてください、煮ておいて。  
ニランジョケ…煮らないがよい、煮らないでね、煮なくて。  
ニランジイ…煮なくてもよいので、煮らないでよいから。  
ニラニャ…煮らないと、煮ておかないと、煮ておけは。  
ニランジ…似らないがよい、似るのは迷惑だから。  
ニラメコ…睨みあいする、睨むことの試合、思わぬ顔に。  
ニラン…似らないはずだから、煮るのは中止、煮りません。  
ニラミツケチ…きつく睨む、怒り顔で睨む、睨む形相。  
ニラミカヤス…睨む顔に返す睨み、睨む人には睨み返して。  
ニリモン…煮たもの、似ているもの、料理で煮た調理。

ニリスグル…似ているのが特別に、煮すぎた料理の方法。  
ニリヨル…煮ているので、煮た料理の方法、似てきた親子。  
ニリヨケ…煮ていなさい、煮ていてください、煮るのを任せ。  
ニリタガル…煮た料理を習いたい、貴女に似たいので。  
ニリスゲン…煮て時間調整、似ているようでもまだまだ。  
ニリテ…煮る担当の人、料理の煮る役割、煮物名人。  
ニルモンカラ…煮物から初歩の勉強、似ているものから。  
ニルトキャ…煮る時の心構え、煮る極意の訓練、煮る気構え。  
ニルソバカル…煮ている側で次の訓練も、追加料理の煮付け。  
ニルンナラ…煮るのなら慎重に仕上げる、煮物の難しさ。

ニルケンナ…煮ますから、煮るのは任せて、煮る難しさ。  
ニレタテン…煮れたとしても、煮るのか簡単味付けが問題。  
ニレタカ…煮えましたか試食も、煮えた加減が問題、煮え方。  
ニレメーガ…煮えないだろうか、似ないのでは、似れたかな。  
ニレンジャツタ…似ない結論、似るのが難しい。煮る至難技。  
ニレット…冷たい笑顔、ひややかな笑み、愛情がない笑顔。  
ニロウドチ…似たい気持ちが満々に、似たい欲望があり。  
ニロウチ…似たいから、煮るのが楽しみで、煮て由煮ても。  
ニロウカ…煮てもよいですか、似たらいいけれど、煮て似て。







あそび

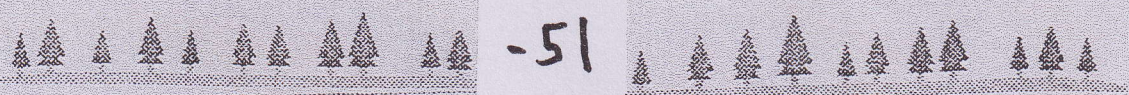
こ

ども

も

んせ

界





## 言葉使いは気をつけて

休み時間の校庭は 賑やかな声と動きに 校長先生も眼鏡越しに 笑顔じじっと 見よった。とそんな時じゃつた 走っち来た 男ん子が『こらのかんか キサネード』 校長先生もそんな言葉は ゆう聞こえたんじゃが 女の子は それが自分が『キサネー』ち 言われたち思うた。

そのままに 授業が始まったもの 女の子に しちみりゃ さっき言われたあん 『キサネー』が ふんイツマデンモ 気持ちちん中に残っちゃつた。次の休み時間に また出会うたが 男の子はまさかち そげなこたー 気にもしちよらんじゃつた。友達が妙に ショゲチョルキ 『どしたんな』 聞きちみた。

『あんしに キサネー』ち 言われたきもう しょげこんだ それがわかったもんじゃき 男の子に どなりこんだ。たまたま 校長先生が通り合わせた じっと聞きちよつたが 男の子はふと あん時んこつー 思いでーた。『あん時ん事じゃつたん』 目じみつめたんが なんか怒ったごたるき いちべ黙りくうだ。

『そりゃー お前があん時に 大きな声じゃつたき てっきり 自分がんこつー キサネーち 言われたち 思うのぁ ゆう分かったど』 校長先生から言われると まさに自分が 勝手に相手は 分かるちおもいこんだ それが 間違いん元でんあつたち 『そうか そりゃースマンジャツタ あん時に ブラサゲチョツタ 油んついたボロギレ お前ん服に つくと汚れち困るき 大声じ おラビタクジッタキ タマガッタンジャロウ。

『スマンスマン ゴメンナ コライーノ』 校長先生も側かる 『悪かったち 断り言うのだ 許してあげたら』『……』 でん心は 納まらんなぁ 当たり前じゃろウ』 でん笑顔が出た。

『どうやら意味が 分かったようじゃの』『はい校長先生』  
『お前たちは 本当に仲良しばかりじゃき 心配したど でも  
誤解が解けたき 校長先生も安心したわい』『ご免なさい  
あんとき ぐあゆう説明しちよきゃ 何ちゅこた一なかった  
に』『もういい みんな仲良しじゃき 内の学校にゃ 物分  
かりの悪い子は 一人もおらんき』

始業んチャイムが鳴った。校長先生が 優しい子どもたちの  
顔を 見回すと 『こんだからは ゆう説明することも 大事  
な事と 勉強ができた そげ一え思うが どうか』『は一い』  
みんな大きな声で 返事したので ほっとしました。人には  
話と言う便利な 言葉があるが 間違うと相手に 傷つけたり  
誤解も招くもん。

友達同士が いち早くそれに 気がついち 話し合う時間が  
あったと たまたま見ていた 校長先生の 諭し方も役にたち  
笑顔の渦が 沸き立っちゃった。

次の朝の登学時間 校門じ待っちゃった 男の子が『昨日は  
ご免な』『何じゃたかな』 ふたりが 顔見合わせて笑うのに  
窓越しん友達も 校長先生も 嬉しい笑顔が ひろがった。

人にゃ嫌がること 言われると悩むこと 影でコソコソ言う  
こと みんな折角の 友達を失うかも 知れない。はっきりと  
顔を 目をみて言うと 間違いがあってん 早く気がつくこと  
になる。はじめは 油がついたら かわいいそうと 思ったの  
が 言葉によって 受ける子どもは 意外な事にもなるもん。

すぐならよかった 丁寧ならよかった 校長先生が見ていた  
ので 後ですべての 誤解も解けた。きっと仲良しだから と  
思います。



## 『家庭が見える子どもの世界』

広場で幼稚園帰りの園児たちがバス時間を待ちながら元気に遊んでいた。おっかけあいをしていたがその輪が広がると広場の側面にまで走り回る。そして草の伸びた側面にまで来た。好奇心の旺盛な園児ひとりがその傾斜面の青草の上にそっと足を伸ばした。

その時でした『こうちゃん そこアブナイ』と大きな声で止めたのでこうちゃんも『ごめん』ときっと心で言ったか引き返した。きっとお家で『あぶないあそびしない』『ともだちの注意も素直に聞く』それが頭によぎったのでしょうか。ニツコリ笑いながら少しテレて引き返しました。

その時に足で大きな石をけったのが転びながら道路に落ちて畑に入りました。『石がコロガッタんで』『え……』何の事はわからないので見回した。それに気がついた農家のおじいさんが子どもが心配しているようと思ったのでしょうか。おおきな声で笑いながら『いいよ おいちゃんか 上にあげちょくきな 怪我せんじゃつた』と心配しています。

こうちゃんはうなずくと小声で『ごめんなさい』と頭をさげました。

その時です バスが来ましたから こうちゃんたち バスを利用する子どもたちは走ってバスに乗りました。おじちゃんはそのバスを見送るとこうちゃんでしょう『ありがとう』そう思っているのか手をふっています。おじちゃんも手をふって『バイバイ』と見送りました。

『こらしょ』おじちゃんは落ちた石をかかえあげて上の元あった場所にすえました。石も喜んでいるようでした。



家に帰った こうちゃんは なでかショゲています。『あら どうしたんな』 こうちゃんが いつもと違うので お母さんは 少し しんぱいになりました。『バスを まっている間に 広場じ遊んでいる時 石にあたって その石が畑に落ちたの でも おじちゃんが 元の場所に あげてくれたので バスの中から ありがとう と手をふったよ』 こうちゃんは こんな話をしました。

聞いていた お母さんは 『あら お利口さんじゃつたな きっと石も よろこんだでしょう。おじさんにも 世話になったな ぁ』 『あした 会ったらお礼を 言わないと』 『そうねいい事よ ちゃんと 言ってね』 『はい』 はればれした 気持ちになった こうちゃんは うがいして 手を洗うと オヤツを貰い 頂きました。はればれした 気持ちのようです。

次の朝 バスから 降りたら 昨日の おじちゃんが いました。『おじちゃん 昨日はありがとう』 『おおあんな じゃつたな お利口さん 怪我せんじゃつた』 『うん』 『そう 家で 叱られなかった』 『お礼を言いなさいと おかあさんが』 『そう ……感心感心 ちゃんと話たんじゃな』

それからは なかよしになった おじちゃんと こうちゃんは いつも 顔合わせては ニッコリ笑顔で ご挨拶です。寒くなって 草も枯れて 小石まで むきだしになった 広場の斜面も 見ただけでも 怖い場所になっています。草があったから 隠れてみえなかった 場所。みんなが 見守ってくれている 広場のバス待つ時間は 人に迷惑かけないように それがお世話になる お返しの子どもにも 出来る礼儀なのでしょう。

みんなが元気に 育つよう見守って くれる人たちに 支えられ 見えないところでも 子どもはみんなの 宝物なのです。

ほんとうは仲良し

『源一コガタナ貸せ』『今日は持ちょらんに』 いつもワヤクする 義彦にゃ 貸したくなかったき 持ちょらんち言うち しもうた。じいさんが つくったコガタナ ゆう切るるき ドウカスリャ 鉛筆だけじのうじ 竹でん木でん ケズルモンジャキ 皆んな使いたがりよった。

仕方のう 自分がんコガタナじ 削りよるが なかなかユウ削れんじ 困っちょつた。源一ゝ気が ヤエー《おとなしい》もんじゃき いじめん 目標になりよった。

授業になっち 書きよったら 間違えた。『消しゴム貸せ』こんだ 源一が義彦に 『今日は忘れたき』 さっき コガタナ貸さんじゃつたき シッペカエシか。仕方ねえき 指先ツツ《ツバキ》うつくると 帳面の上から ゴシゴシ コスツタ。紙が汚れたケンド《ケレドモ》 なんとか字は 消えたき そん上かる鉛筆じ こゆう《濃く》ケータラ《書いたら》 うまい具合に書けた。

横目じ見た 義彦は うすら笑いしよった。帰る時間になったら机を ポンと いさぶっち《ゆらして》 机の上の 道具が散らかったが 知らぬ顔して さっさと 義彦は帰った。

次の日は朝から小雨 源一は学校に行くの 気がすすまんのか 朝飯後も モジモジしよる。『早く行かんと 遅くるるど』 じいさんが縁先じ 怒りよる。『うん』 生返事じ傘を 乱暴にさすと慌てもせんじ 出かけた。母じょうは《お母さんは》 気になるき おいかけち 『あとじ買い物に 連れち行くき 早う行かにゃ』

しぶしぶ学校に 着いたが もう来るかん知れんち 気もソゾロじ窓ん 外ばかり見よる。『源一どしたんか』 先生も気がちーたんか《ついたのか》 注意したが……

雨が小降りになった 休み時間に 源一は校門にたっちよる。母親ん言うた 『後じ買い物に 連れて行く』 そりゅう信じち 待ついじらしさ。友達に『いじめ』じゃのうでん 毎日辛さに 我慢する そりゅう思うと そげな事まじ して一《したい》気になるんじゃろう。

降る雨が 傘にパラパラ 音をたてて 誰かが近づいた。受け持ちん河野先生 赤い鼻緒んついた 女物の下駄をつっかけち 来よる。そりゅう見た 源一は 幼い心が痛むのか 『先生』 涙浮かべて 『おかちゃん まゝこんに《来ない》』『きっと セワシイキ《忙しいから》 これんのじゃろう 教室じ待っちょ りゃいいんじゃねえ』

先生のそん 一言がどんくれ《どれほど》 気持ちを 落ち着 かせたか だまって頷くと 先生の後について 教室に帰った。

勉強時間になった 教室の先生は 『お前どうは みんな友だちじゃろう 仲良しじゃろう。どけな事があってん ちった我慢 したり くらえたりせにゃ 我慢する人間は むげねえち《かわいそうと》 思わんのかのう』 源一が おかあさんが お医者 に行くち 今朝聞いたき 心配しち 勉強がでけんじ 何べんも 校門のじょう 見よったんど。

そりゃー《それは》 先生が苦肉の話で みんなに謎かけしたら それが本当と おもったよう。それだけ皆んな 優しい心があるんです。義彦は黙ってしまった。しばらくすると 『源一 お前は 早引きしち《早退》 帰れ 勉強は俺が帰りに よっち 教ゆるき 心配すなん《心配しなくてもよいから 任せちよけ》

教室に拍手が起こりました。先生もニッコリです。『義彦 い ところがあるのう 餓鬼大将』『餓鬼は 先生余分じゃねえ』



五助の

あやた話  
いばな話





『あげな話、ごげな話題』

陽にアタランに色は黒い。時ニヤ元気ゅ出したり縮んだりスルカチ思うと 知らんふりもする。ジャキ誰でん欲しゅうなる。よそのもんじゃき 『おくれ』とも言えんしソゲー思うとモウ ぎゅうと握りしめとうもなる。ダマシくるっとムケチ頭う 持ちあぐりゃ たまがっちしまう。

ヒョイトそっと 抱えあげちムドムド しちクレメエカち言われたらアンタ どげえする。今はコンメエガ イットキスリヤ とてん大きゅうなっち 『乗りよ』ち言うかん知れんな。』『チャーウット どげーしゅう』『心配せん でん 飼うなゃ簡単じゃき』

水槽ん中をじっと見つめた 娘は『本当は今日でん 欲しかったが』 そこまじゃ 厚かましゅは 言えん。

★ 文字にゃ上下かる見てん 右左かる見てん トット同じ字が幾つかあるんじゃが 解りますかな。数字やら地図ん記号なんかもあるき 暇つぶしに調ぶるんも面白いかん知れんで。 答え☞次頁。

★ こんだ簡単な数字ん埋合せ 升目に1かる9までん数入れちそん合計が 15になるんじゃが。ちよいと考えち見ると 頭ん体操になるかな。答え☞次頁。

★ 一合の重さ 塩…100G。白米…140G。牛乳…180G。きなこ…70G。醤油…200G。清酒…180G。食用油…160G。小麦粉…90G。押麦…100G。豆大…140G。など。

★ サジいっぱい分量

ミソ…15 G。醤油、酢、塩…12 G。小麦粉…6 G。  
白砂糖、油…10 G。などです。

人の道では先人の知恵が 継承されているが 『忘れたふり  
をする人も』多いもの。解っていても実行は 難しいもの。

- ※ 忘れちゃならない 恩義。  
捨てちゃならぬもんは 義理。  
人に与えるもんな 人情。  
繰り返しちならんもんは 失敗。  
通しちならんもんな 我意。  
笑っちならんもんな人ん 失敗。  
聞いちならんのは 他人の秘密。  
お金じ買えんもんな 信用。



一笑は一若く、一怒りは一老に近づく。たった一度きり  
人生でんある。常に心は豊かに 有意義な人生を願いたい。

★ 前頁の回答…わかりましたか。数の問題

2	9	4
7	5	3
6	1	8

★ 左右上下から見て同じ字、数字、  
記号☐米、口、囧、井、井、田、十、  
。 ※、卍、O、X、など。

余暇を有効に生かす人 有意義に過  
す人は 常に脳細胞が 活動している  
ので 老け込まないそうです。限られた人生を 120歳  
までは 生きる権利があります。有効期間を使うのも 折  
角この世に生存する 何よりの証です。遠慮無用に。

野津原の『方言いろはカルタ』

い…いらぶかす《ごまかす》儲けたごたち《ようでも》  
損ぬする《損をします》  
ろ…ろくしゃもねえ《人並みでない》日もある長え人生にゃ  
人生とは長いいばら道。  
は…生えたかえ《ましたか》まだか じわっと《そっと》  
覗き見する《きになるもの》。  
に…のろうじよる《にらんでいる》時は 気をつき《つけよ》  
飛びつくど《飛びつきますよ》。  
は…ほしがるな好きか《欲張らない》 昼間はちと無理ど。  
昼間は《人目もあるから用心》。  
へ…へちらうな《かまわない》事ん あげくにゃ《結果では》  
苦勞する《苦勞背負い込む》。  
と…どうくんな《さわがない》お前に 言わるる筋あねえ。  
関係はないはず》。  
ち…ちゃんと《きちんと》せにゃ《しないと》牛見が《嫁捜し》  
そこまじ《まで》来たごたる《来たよう》。  
り…りこうもんな《知識者》人ん《の》世話する 役にたつ  
《面倒見がよく信頼も》。  
ぬ…盗み悔い《内緒で食べる》みやげを《思わぬ遺産を》  
残さんごつ《さないように》せにゃ《しないと》。  
る…留守したら 誰かに《信用な人に》頼め《頼みなさい》  
不用心《心配なし》。  
お…おいちいち《だれがおいたのか》ゆう《よく》見りゃ  
《見れば》よそんもんじゃつた《よその物のよう》。  
わ…わきゃがると《さわぐと》人目にもつく《人も見る》怪我  
もする。  
か…がきたれも《悪棒も》時にゃ《には》役いたつ《役立つ》  
道具にも《人間にも》。  
よ…夜る話《色話》だんだん下がって《話が飛躍して》下に  
くる《予想通りな結果に》。

た…たてひだん《立て鬢の》ちらり《少し》見えただ《見えた》  
官山が《大切な管理の山の意味》。

れ…れんぎじゃき《すりこぎ》味もましちよる《よくくなった》  
トロロ汁《山芋のすりおろし汁》。

そ…ぞうくんな《冗談騒ぎ》お前にゃ《には》 借りはねはずじ  
ゃ《ないはずだけど》。

つ…つぶさんか《閉じなさい》うすめでん《すかし目でも》  
見ゆるじゃろう《見えるはず》。

ね…ね一どよい《ないですよ》そんくし《そのくせに》そんくし  
《そのくせ》後ろに隠しちよる《かくしている》。

な…なぜたがる《愛撫したいなら》なら ちっと下が《少し下》  
いいけんど《よいけれど》。

ら…らくたびじ《綿でつくった裸足足袋》運動会は《小学校の》  
いつも1《大概1等賞》。

む…むげねこされ《かわいいそうに》又いいことも《きっとある  
いいことも》あるじゃろう《ありますよ》。

う…うなどうも《おまえたちも》しゅわーねえかち《大丈夫かと》  
念ぬ押す《確認する》。

い…いぬんなら《帰るなら》みやげもちっと《みやげの一つも》  
ことずくる《もたせよう》。

の…のこぎんの《野良仕事着物》今日はほせるる《干せますよ》  
いい天気《晴天のよえう》。

お…おずがるな《怖がるな》自分も おじいんを《怖いのを》  
知っちよるき《知っているので》。

く…口水ん《よだれも出そうな》たるるごたる いいはなし《よい  
話》。

や…やえこっちゃねえ《難儀な事じゃが》 苦をみりゃ《みれば》  
いいことも《きっとよい事も》。

ま…まどうちよけ《弁償しなさいよ》又借る時が 出来ちくる。  
よくそんな事が起きるもの》。

け…けんたいに《勝手きままに》人ん《の》砥石を 使いよる。  
《砥石は減るものでもあるから》。





ふ…ふえんごつ《多くならぬよう》食うち口んはと《口のまわり》  
ぬぐうちよけ《きれいにふいておく》。

こ…こなされち《いじめられて》親がでちくる《親の応援が》  
あまえんぼ《あまやかした子ども》。

え…えらわんき《あたらないから》こそっと側に《しずかに側に》  
寄っちくる《寄ってくる》。

て…てえげえにゃ《たいがい》しちよかにゃ《してないと》  
人が見ちよるけん《見いるから》。

あ…あこぎゆうき《ぐずぐずいつまでも》又きらわるる《嫌われる》  
若え仲《若者同志》。

さ…さぜくぶる《まとめてたきぐちに》夜更けんぬりー《ぬるい》  
貰いふろ《風呂にいらてもらう立場》。

き…きなくせー《くすぶる匂い》せっかくん時ん《肝心な時の》  
尻まくり《いい事はじめじなのに》。

ゆ…ゆるうたか《まましておけ》まましてしちよりゃ《しておけ》  
戻るじゃろう《帰るからしんばいない》。

め…めんどしい《恥ずかしい》こげなはずじゃ《こんなはずでは》  
なかったに《ないと思うに》。

み…見しけちよけ《さがしておいて》すぐ取り《すぐとりに》  
来るかんしれん《くるかもしれない》。

し…しかとしもねえ《つまらぬものの》話に花がさく《話の種に》。

え…えらしゅうじ《かわいいらしい》こんめーけんど《ちいさいに》  
味がいい《頼もしい》。

ひ…ひろげてん《ひろげても》ようがすんだら《用事済みなら》  
かぶせちよけ《かくしておきなさい》。

も…もうせんき《もうしないので》言い訳した夜に《言ったばかり》  
の夜》又うずく《思い出して》。

せ…せちなぎー《なさけない》野辺ん送りん《土葬の》土う寄せ《  
かぶせる》。

す…すばゆのほず《乳があふれるほど》乳がでちくる《出るので》  
兎沢山《子どもが多い》。

野津原じ古くかる使う 生活用語ん方言な 初めち聞くと何か  
喧嘩でん しよるんじゃねーか ち思うけんど ゆう聞いちよる  
と そうでんねえ 温かな気持ちが こめられちよるごたる。

しよるんじゃねーか…しているのでは ないだろうか。ち…ふ  
と考えたり 心配したり 不安になったりする。『ち』はとてん  
相手をおもいやる 優しい人間の気持ちが はいっているんで。

けんど…けれども。何か言いたげな。じゃないんです。遠慮が  
ないからか 仲がよすぐるからか。ゆう…よく聞いて しっかり  
確認することで。とっさに判断すると 誤解にもなりそう。

そうでんねえ…そうじゃないんです。本当はこんなに 言いた  
いんです。こう思っているのですが。つい激しく話すと 荒く聞  
こえて 損をするのかも 知れませんが。

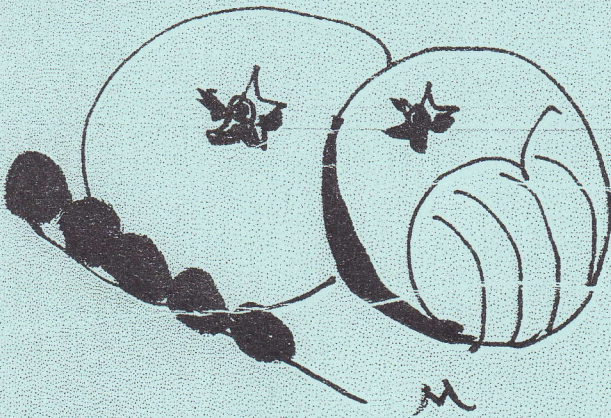
おおもとから 海上を通じた阪神、京に届く距離にあるき そ  
のルートから入った。小藩分立によった 行き来ん人たちが そ  
の都度ここに下ろした言葉が 共通語と一緒に広がる。肥後領地  
時代の『宿場町』もあって この点が交互に連なる 都市との結  
びつきが こんな効果を交通、産業、文化 なんかとともに 根  
下ろした証でんありそう。

言葉は人間が使う何よりの 利便性があるが まったくお国訛  
では 意味が狭まるようで 野津原のように両方に 広まる地域  
性を生かした 交流発展はそれをあまり 違和感にしないのが  
得かもしれないち思う。方言が失われ消え去る そんな今調べて  
記録に残す これも意義がありそうです。最終的には約5万語は  
越すかも。それが過去には生活の 用語として使われた 不思議  
な調査に取り組んだ 不思議な素人集団です。ごめんな。有り難  
うございます。

ちよるん  
じゃねーか  
の  
ちよるん  
じゃねーか  
の  
ちよるん  
じゃねーか  
の



# 玉手箱





△△△ 赤坂石畳街道 △△△

一の瀬を渡るといつもんごつ 五助さんが愛馬ん 手入れをし  
よったんを 感心そうに見守る人たち。それに応えるごつ あん  
馬子歌が今日も聞かるるごたる。

§ 肥後か府内か 一ノ瀬渡りゃ お国訛が懐かしい

ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ §

『今日はヨコイナ』『インネ 昼かる久住まじ 上るんで』  
いつもんごつ 髭面うなぜち 愛想ゆう返事ゅする。年寄りだけ  
じゃねえ 若いしでん子どもかるでん 好かるるんも 優しい心  
が顔かる 出るごたる性格が そげーさするんじやろう。ここじ  
チョイト よこうと いよいよ赤坂石だたみが 目の前にある。

ここまじ来ちこん山にち 初めてんしゃ 恨めしそうに見あぐ  
るが 道にゃ上りもあるかわり 下りもあるんが 世の中ん事。  
人間の世界でん 上りに苦勞すりゃ 次は下りじ樂するもんじや  
わな。肥後に帰るしたちゃ こん坂じ性根を 入れちよきゃ  
あたゝジワット上りが 多いき根性試しかんなえ。

川を越すとすぐ右手に 山道上る道が待っちよる。山ん中じゃ  
き冬でん そげー寒うはねえし 夏は涼しい木陰じゃき 考えよ  
うじゃいい場所になる。石畳も敷かれちよる 幅広い企画道じゃ  
き ちった曲がりくねっちよるが 葛籠折れは苦にゃならん 坂  
でんあるち 慣れたしたちは喜ぶ。

まゝ文句言うてん 仕方ねえんでんあるが 雨にも水はけは  
いいき元気もんな 草鞋もあんまり 濡らさんじつたそうな。旅  
慣るりゃ要領も ゆうなるんかん知れんが。途中にゃ広場もある  
南に柿野、北にのろし場んある野ん台に 抜けちよる。



そうこうしよると 肥後かるんしたちも ここまじ来た。旅の  
楽しみはコゲナフウニ 途中じ出会うと心ん交流 肌じ感じる旅  
ん香りが 道中ん人たちん 思いまじ伝えちくるるもん。下りん  
したちぁ これが坂道んオシマイじ あた一府内でん 鶴崎でん  
デーラ道になる。

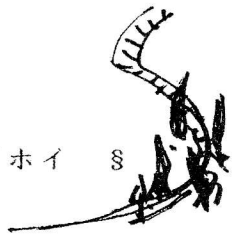
『気をつけち行きなゝえ』『おおきに』『よかしのじゅうじゃ  
なゝ』『そうなえーだんだん』 方言が飛びかうと 話が長うな  
るんも どうやらこれからは もう足軽じゃき 気楽になったん  
じゃろう。『五助さんち言う 馬方さんな オラスト』『五助な  
ソコン川じ馬ん手入れしよったで』『そりゃヨカタイ馬子歌を  
聞かにゃ』

お目当てん『オルキクサ 聞かにゃ』 足が早うなったぬ見送  
り 伊塚に上るしも 足が軽うなった。五助が自慢の種に なる  
なんか嬉しいこと。そりゃまゝ 捕まったら 晩方まじショワネ  
ェカン知れんなゝ。声つくろいシヨリヤセンカノ。葉揺れに小鳥  
が飛び立つと なんかい事 ありそうじゃ。

§ あん娘としごろ姉さんかぶり いつか覚えた馬子歌を  
ハ 七瀬のほとりにゃ 目白ん谷越え ホイホイホイ §

『ここが伊塚じゃな 地藏様がゴザッチョル』『夜泣きを治し  
ちくくるき 子ども連れん参りが多いんで』 側に落ちてちよる松  
葉を フスボラカスと ご利益があるち 遠う近うかる参るんで  
赤い 前かけがいつも新しいよう。お地藏様も 街道筋じゃき  
いつも賑やかじ お供えも受けち 旅んしがヒモジュナッタら  
さげち頂くんも 供養んごたるで。

§ あれが宇曾森 明日は雨か 障子に映す影二つ  
ハ 七瀬の宿場にゃヤセウマ ダンゴ ホイホイホイ §



## 農家の玉手箱 『アセリ棒』

『今日も干したかえ』『ちっとでん若いしん 手をタボウチな  
年寄りゃ ほけ何も出来んき』 日ざしがいいき ムシロが並び  
ショウケじ 運びわけたアズキ。てんきにレンギじ 叩きあやし  
たアズキ。朝日に輝きよる。米が安いもんじゃき 百姓はヤエコ  
チネーガ それでん畑じなった アズキはまさに 宝物。

昔んごた一ねえにしてん 時々ん祝い事や 貰ってん使い前が  
いいき 町じ暮らすしにゃ コウダイなみやげもん。『孫ん誕生  
にアズキママ炊いたんで』 電話ん向こうかる お礼ん話が来る  
と 荒れた手を見ちゃ 年寄りも役に立ちよるち 嬉しゅなる。  
『今日もアセリ棒が 頑張っちくれそう。』

上手に使い分けち アセルとムシロン上が ひらと一均されち  
上下 右左に転がった アズキが具合ゅう干し上がる。笑顔が又  
こぼるる横顔にゃ 90 過ぎてん仕事んある 幸せ人生がとてん  
嬉しいもん。もうで一ぶん前まじゃ ツボいっぱい 100 枚  
ぐれんムシロ干し 一人じアセリ返すと すぐアセルこちなる。

それがあつたき 暮れん初すりにゃ いい米がもみ殻かる 離  
れち出来上がる。これもアセリ棒を 上手に何べんも アセリ返  
したけんでんある。道具があつち そりゅう使え人ん器量と気持  
ちが いい米にしあげちよる。摩擦じほどゆう 磨けちツヤモで  
た大事な宝物ん アセリ棒が今日も出番に。

『まゝノサンナ』『ありゃ おおきに どこ行きな』『どこち  
思うな』『さー 娘んかたな』『ちがうで こき来たんで』『え  
何事な みんな出かけちよるが』 嬉しい笑顔が交わされよる。  
うれしいもん 一人が多い農家じゃ 人が来ち話が弾むと もう  
顔ん黴まじのぶごたる。

あれかるもうデーブンたった 二人ん話がさかのぼっち 70年  
前まじなった。共同じ昪すりしよった頃 米がトーラに 入れられ  
ちホズミもかけた。まるで人形んごたる 米俵んヒゲムシリすると  
『出来上がり』になる。ここまじ88回 手間隙いるき 米んじが  
出来たち言う。

梅雨ん田植えかる 夏ん草取りそれも ヨツンバイになっち 株  
元かる畝ん間まじ カガジリとっち 暑い盛りどま 牛アブが背中  
にグシリ。ドロんついた手じ 掻き回す。汗もついでに拭くと 顔  
にも泥化粧。『それでん エエラシュウなっち』 二人はここじ  
大笑いした。

干した麦う メグリ棒じ叩き落とした 穂先う具合ゆう 叩くと  
実がブーを離れた。ドンコンネエ暑さ ゆうまゝ病氣も せんじゃ  
ったが。『病氣がそべーヨリツケン じゃつたんじゃろうなえ』顔  
と顔が 興奮したごつ熱氣が いると話がもう トメドネエ 続く  
。けんど手先はチャント ホシモノう手先ん 感触じ感じちよる。

『ちよいとアセルキ 縁先腰かけちよりよ あとじ茶をサスキ』  
『ホンナ うっとうがイルルワ』 勝手知った家じゃき ないしよ  
に行くと茶のみ茶碗を出した。そんナカメ アセリ棒が忙しく右  
左にここんバアチャンも 動きが早いが 仕事となると 不思議と  
性根がはいるもん。

『お茶受けゝねえが 鼻でんツモーデ』『イイデ 気を使いなん  
な』 縁先に腰かけち 昔ん語り草が 夢んごつ広がった。元氣じ  
おる幸せも 若い世代んしが 大事にしちくるるきなえ。そりゃも  
う撒いた種じゃこそ あんたがいきこす 若いしも自然 ゆうし  
ちくるるこちなる。のどかな縁先 幸せ人生でんある。人は善行  
つめば 自然報いとなっち 帰っちもくるもん。アセリ棒もそりゃ  
弁えち 言うこつ一聞いて くれたき一かん。



熊本ん方言がちっと出たが 方言も古い生活用語じ まさに宝物でんあろう。まゝあんまり字も書けんしが おったそげな時代でん言葉は 上手に使いこなすしが 案外多かったごたるき。江戸期になると寺小屋式ん 学問がひろがっち だいたい習う機会も多うなったし 野津原ん場合は肥後領ん 学問所や私邸で教える そげな奇特な人も多かった。

文字が発達すりゃ自然と 物書き、計算、記録、なんかが広がり そげな仕事 それに使う物の製作 保管 さらに印刷と 生活環境も広がりよったごたる。話しただけじゃ 忘れたり間違いが 起こったりするき こんだ記録をする。それを保存する人、場所になんかにと 人間活動が広まったごたる。

そん一つ一つが 人間の生きている間は かけがえのねえ宝物に結びつくもん。じゃきそげな宝物ゝ 大事にするんが 建て前じそこになるんが 守るべき決まりを作った 憲法がそん国の最高な宝物かん知れんが どうかすりゃそん 憲法が疎かにもなりそう。しっかり守ってこそ 安心しち生活も保証され 生きらるるこちもなる。

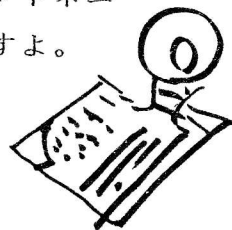
地域でんこれたゝ 違うけんど大事にしたい 宝物もあるもんじ 今回ん『赤坂石畳』も 人間の生活道路じあり 幹線でんあったき使うだけじ のうじみんなが 大事にする責任もあろう。江戸期間にゃ熊本かる 江戸に参勤交代じ 上り下りした熊本と 江戸を結ぶ幹線でんあったわけ。

『アセリ棒』百姓し以外は あんまり馴染みねえが 農作物の干す場合の重要な農具 それに器用に使わんと 旨く製品が完成せん技術も 必要じゃつたが慣れが 肝心じ教わったら 素直にそりう守ることじ 目的は達成もできよった。農具は使い方じ 絶対的に効果が出る ごまかしの出来ん宝物でんあった。



◇◇◇ 方言説明 ◇◇◇

- 6 3 P 肥後…現在の熊本。府内…現在の太田。ヨコイナ…休息しては。インネ…いやです。上るんで…上ります。そげー…そんなに。ここじ…ここで。よこうと…休憩すると。てんしゃ…人たちは。もんじゃわな…ものですから。ジワット…静かにゆっくりと。くねっちょるが…曲がりたりして。でん…でも。じった…でした。そうな…ような。
- 6 4 P そうこうしょると…まもなくしていると。かるん…からの。コゲナフーニ…このように。オシマイじ…おわりです。デーラ…ひらたな。よかしの…熊本弁で…良い方。だんだん…ありがとう。オラスト…熊本弁で…いらっしゃるかな。そこん…そこの。ヨカタイ…熊本弁で…よいけれど。オルキクサ…熊本弁で…いましたので。ショワネーカン…世話はないでしょう。シヨリャセンカ…してはいませんか。谷越え…あちらこちらと飛びまわる。ザッチョル…祀ってある。くるるき…くれるので。フスボラカス…いぶして。ヒモジュウナッタラ…空腹になったなら。
- 6 5 P タボウチ…節約して。ムシロ…乾燥させる敷物農具。ショウケ…竹製の農具。レンギ…すりこぎ。叩きあやす…叩いて実だけを取り出す。ヤエコチャネエ…大変ですが。コーダイ…貴重品。ひらとー…平坦な。もうデー分前…ずっと昔の話。ツボいっぱい…農家の庭先いっぱいに。ノサンナ腰のして休憩しませんか。
- 6 6 P デブン…だいぶ。まじ…まで。トーラ…俵。ホズミ…四方にかける縄の結び。ヒゲムシリ…俵をきれいに仕上げる。ヨツンバイ…前かがみになって俯き姿で。カカジル…むしり取って。アブ…牛馬に寄りつく大きな蠅。エエラシイ…愛せしい。メグリボウ…回転して脱穀する農具。ドンコンネエ…タイヘンデ。ツモーデン…つまんでも。トメドネエ…続けて。イルルキ…入れて準備。いいで…よいですよ。



- 方言説明 19P ちやる…あげる。したんじゃねえ…したので  
はない。ヒラテー…平らな。そげーしよると  
…そうしているよう。こげなふうになると…このような様子にな  
ると。それでんコラエチ…それでも我慢して。ソクウ…そこを。  
そげな…そんな。デーブン…だいぶん。落てたんか…落ちたのか  
。ここらじゃろう…たぶんこのあたりでは。コラエジウネガ…我  
慢つさが。こんだ…こんどは。シデータ…しだした。えーそうな  
…あらそうなのですか。ちっとシメラケーチ…少し湿らかして。
- 20P ジャのう…でしょうから。ゆうべ…昨夜。オロシタ…初め  
て履いた。チャーリャ…あらまゝ。くるるんで…もらえるのです  
よ。慰問袋…戦時中に戦地にいろんな物を 入れて慰問に送る袋  
。にんずうが…人数が。まゝの…まあまあで。銅銭…古い貨幣の  
1銭2銭5銭10銭など。カマゲ…藁で作った農作物を入れる農  
家の備品。オーセチ…背負わせて。大津神社…木の上にある宮。
- 21P いっときヨコオウ…一休みしましょう。なぎーことじゃ…  
惜しいことでもある。ヤッパどげも…やはりどうしても。チータ  
…思いたった。イクツデン…いくつでも。タマランナ…我慢が出来  
ない。ドチナッテン…どちらになっても。ダマシ…急に。けん  
ど…けれども。インゲ…いいえ。コソット…静かにそっと。ドコ  
カジイツカ…やがてどこかでいつかきっと。じゃつたのう…でし  
たなゝ。どしたんか…どうしたのですか。どうもせんじ…どうも  
しなくて。こげん…こんな。じゃこと…ですこと。

方言は難しいが普通ち 思う人も多いが 使い慣れた親しみが中  
に入って 人ん真心まじが伝わる そげな性質もあるもんで お国  
訛が親近感を増す そげな事もあるようです。慣れるまでは大変じ  
ゃが 大分地域じ使う方言にゃ 江戸期間の小藩分立ん 名残りが  
あっち迷う場合も多いよう。あれかる年月が流れたきか こん頃は  
懐かしいち言われると 何かほっとするけんど……。

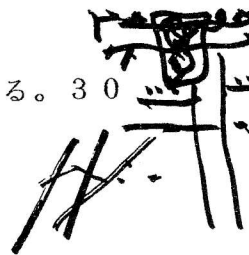
壺の鳥居からは1800M 子供じのうでん鳥居に 投げあげた石を観ると投げとなる。連れん娘も好奇心旺盛じゃき 投げたらなんとピタリ上がった。顔見合わせちニコリ 『いい婿さんが決まったのう』『じゃろうか』 不安そうじゃがヤッパ 嬉しい顔がいつまでん輝く。そんな横顔んなんとイジラシイこと。

こん鳥居は紀元2595年に 建てたちあるき地元ん 寄進者や家族も観ると嬉しかろう。そんなすぐ上に1800M指標じ 汗がこぼれてん頑張れるる。松ん赤い幹や桜ん太い幹 45度急傾斜道もヘデンネエゴタル。起伏ん激しい参道じゃが 昔ん修行者にゃこれが 大事な場所になっちゃつたじゃろう。

弾三ち言う力持ちがおっち 1丁目ゴチーまつた仏像を 力に任せち運びあげたち言う。神の力をもらったき 大阪相撲に入りいい成績が残せたそうな。右『うどうさん道』ち書かれた そんな願主は乙津後藤とあり 左側は松が薄くらいまじに 密植しちやり南は西に開けち 松ん一本はえがあちこち。古くはこん野原は春先にゃ 野焼きしち新芽が萌ゆる頃ん ワラビン原を御輿が春祭りん おくだりとなるが 一気に滑りおるるんが 眺められよった。滑りおれてん怪我ひとつ なかったそうな。

行き交う人たちゃ子を背に 妻ん手を引いち登る姿。カラフルんパラソルが 周りん緑になんと溶けこんじよる。連れん娘は遠近に建つ石仏に 目が吸い込まるるが ありし日の優雅さとわもう 想像もつかんごたる姿。誕生日が今日ち言う 人とも出会う参道 曲がりカーブが右に左に 砂利道やら落ち葉踏みしむる道 そんな中じゃ山ん小動物が わが物顔に走る専用道もあるごたる足跡がついちよつた。

由布岳を左に眺めち行くと あと500Mの木標がある。30年ぶり参拜ん別府んしに 巡りおうた。





# 五助街道語





## 浅内ウナギ物語

お中日は夜半からの上る 人が多ゆで道いっぱい。戦地に行くしも武運長久祈願する人 はじめちん子の『虫封じ』に いつも参りよった人 子どもを背に参ったひとが 子どもん成長んお礼参り。そしち親になり又 そんな子ん無事ゆ念じち参る。心ん伝承が宇曾山の神秘密さと 心ん結びつきが はっきり現れよるごたる。

右手奥に浅内長者ん居住後が 目下に見ゆる。こん地にウナギん主がおっち 人間に捕まっち野津原に。途中ほかんウナギが 涙流しち送るんに『心配いらんき ちょいと背中うアブッチ 帰っちくるき』ち 安心させた。さばかれち炭火じ 蒲焼すんでんに なった。

もくもく煙りが立ちのぼると さーと白煙り諸共そんなまま 姿が消えちしもうた。『ありゃりゃ』漁師たちが目を コスリヨルがもうオリドコロカ 姿見えん。イツンナカメーカ ウナギん主は浅内に白煙りに乗って 一目散に帰っちしもうた。次ん日にゃ谷にゃ背中ん 白うなったウナギが 何事んねえごつ 泳ぎよった。

それかるち言うもんには 浅内んウナギは捕らんこちい決めたそうな。じゃき水もいつもんごつ 流れよるごたる。お互いが生きちよりゃこす 助け合う事にもなるが それじこす役立つ事も あるんが世の中ん仕組み。あんままウナギが 往生したらどげなったかウナギが石垣う クズシチシマウと 大水が出るこちなる。

ウナギの主もそれからは 水ん世話もしたが 大雨にゃ知らせたりなんか 助けあいが続くきか幸せな里になったち言う。浅内長者も野津原に出ち 『鷺が城』も出来たが 戦国時代は大事でんある時代になっち行く。がこれも戦国武将ん 世のならいでんあろう。里はすくのうてだん平和じありてーが。

若い二人連れは 子どもを授かる祈願かん 知れんが夜中に『御戸開き』があるんも 珍しい神様でんある。これに合わせるごつ前ん日ん 午後9時ごろかる 上りはじめるんじゃが 早え時にゃ『おこもり小屋』じ 休憩しち待つんも多い。こん頃にゃ拝殿前にも 土産物う売る店もあるき ちょこっとした物あ 手にはいるもんじゃ。

飴がた、ニッケ水、餡ころ、なんか素朴なもんが 並ろうじ子どもどま5銭も 持ちちよりのいいほう。2銭しか持たんでん シャント握りしめた 手の温もりが離れとねえち 汗が滲むごつなちよる。それん宇曾さんに参った そんな証にゃやっぱ何かねえと 話ならんじゃろう。紙ニッケん色う口つけち。

こげなしが『御戸開き』う 拝むとそろそろ下りる。2時かるあたー5時頃まじゃ 人が少のうなる。がこんだ5時過ぎにゃもう 早起きん組が上りだす。陽の光りゅ拝む連中になる。奥の院じめでたら 『今年も運がいいで』それぞれ 思い思いん解釈じこんだ ゆっくり下るがそん頃にゃ 上りも多うなるき 奥の院な賑やけえ。

関ん漁師は夜中帰りに 宇曾山の灯が一つん目標に 帰るち言う。無事に港に入るとなんか ほっとするもんじゃき 正月どま鯛う下げたりしち 初もうで参りが多い。『宇曾講』もあっち 参れんしたちん分も お賽銭を預くるが そんな代わりんごつ 関の権現様にゃ秋にゃ『虫よけ』ん 札を頂きに行くち野津原かる お参りする風習も残ちよる。

ぼちぼち小学生やら 青年団やらず多うなった。仕事ん都合じこれになるが 『彼岸の中日にゃ仕事たよこえ』ち ゆう言うごつ地獄ん釜ん蓋も開くそうな。人並みよこわんと怪我どますりゃ 笑わるきち前もっち 仕事んサンクリするしも多い。



『やえこちゃねえな』 追いかけて来た若いし 『ヒジーワ』  
ち 相づち打つと 『よだきゅねえな』 『ヘモドルワキモいかん』  
と お返しがあつた。『さっきカガジッタもんじゃき ヒリヒリス  
ンニ』 『ソリヤマゝむげのこされ』 『くびつちくるる』 手拭いを  
セーデタもんじゃき 『きびがいい』 なんか 思やしめが のっき  
言われち タマガッタが なじゅうじょんぬ見ると 『いい手じゃ  
な』 ち 手を引き寄せち クビッチャツタ。

つくなるごつ そきースワリクウダ。『ショワネエンナ』 『オオ  
キニ どんこんねえ 忙しかつたに それでん コトンゴツ言う  
もんじゃき 参つたらこげなふう』 『どっかんしが みよそうち  
笑いよろうが』 一人じ怒つちよるが そりゃ違うち思う。ゆうし  
たもんじ ちつとぐれスリムイテン 死んだ分けじゃねえき シレ  
ットシチョリヤ 『すもつくれんこつ 考えてん ムカツイテン  
ユウシタモンジ』 ひとつはずみ よろうちご利益う 貰うんで。

人うちシマワシタリ たちん悪いこつせにゃ ねらまるりゃせん  
き わあわあまくり ゆうなるもん。にいった子を背に 上るしも  
シバユル乳う ぬぐうちまゝなえふんと。オヤジとらんちーち そ  
びーち上るんも ええらしいもんじゃ。ノッキ見せらるりゃエバリ  
ニ 引っかかつた虫んごつ 飛びあがつたりする。せかにゃ 『おつ  
たんかのう』 ち イラウナ。ウッショケ 後じ 『おつたんかのう』  
ち タマガルフウがスリヤ てんじょ張り替えたごつ 美しい事  
いなるわな。

こげな話う 聞いちょつた 連れん娘と五助さんな 『どげーか  
方言話し先生たちかのう』 『そおんごたるなゝ難しいなえ』 『や  
ちつた解らん所が あつたんか』 『五助さんな校長先生じゃきな  
皆わかつたんじゃな。』

## 吾八の涙に人の心が

明日はこどもがうまるる せめてアンマリ苦勞せんじ 生ませて  
えち カカいじめする吾八。汗うふきふき参道に入った。もう月あ  
かり道じゃき薄くれえ。口こす悪いが 心んなかは案外 ホラケエ  
き 念ずる気持ちに変えたじゃろう。あと5丁ん石柱がある そんな  
すぐ後じゃつた。

目の前に大けん黒牛が邪魔しちよる ダマシン事じ慌てたが ヘ  
モドッテン 水ん泡。勇氣ふるうち おてついち目を 見はなさん  
つ ソート後ろに回っち 山ん中うかけあがった。と いつんなか  
め一か 牛ん姿はパツト消えちよった。『神様が試したんか』 急  
に振り返ったが 何もなかったごつ 老い松ん風ん音だけ。

連れん幸ちゃんが なしか振り返った と 三組したオサゲン娘  
が せっせつと上っちきよる。見られちよるき ドシタンカち 目  
がおうたモンジャキ 二人が何かいいたげな それじいち 話しゃ  
ねえままだに 擦れごうたが ふっと話を聞いち 想像場面とダブツ  
タンカ。

害虫に食い荒らされち 枯れたあとにゃ；うまい具合に補充しち  
植えこむんも 山を愛する人たちん 心ん現れじゃろう。野焼きが  
山に焼き込む 無残な姿になったり みずみずしい山の姿に 鳥も  
喜ぶ自然の営みゃ これが不思議な人間世界じゃ 謎の解けん不思  
議な世界でんあろう。神とは人間とは不思議な もんでんある。

吾八の参拝も無事終わッチ 帰ったらなんと 男の子が生まれた。  
天祐神助まさに 感謝の現れじゃが 信じた心の祈りが 受入れら  
れち母親となった ご苦勞のうぶ声にと 連のうたんじゃろう。心  
じ念じ心じ信ずる時 鬼神もさけちくるるもん。優しい社会はある  
もんじ 信じるかは心ん 問題でんあろう。





『なんか真剣考えよったのう』『ふんと 不思議な気持ちになっ  
たんで』 五助さんも 年頃になっちよる 幸ちゃんの 幸せそう  
な横顔に 『やっぱ母性本能が 脳に刺激したんじゃな』ち そんな  
優しい気持ちが とてん嬉しかった。『さすが大和なでしこじゃな  
あ』 『え 何のことな』『いんにゃ いいんで』

年頃ん繊細な娘と 連れになった ご助さんも年とった 脳がち  
っと若返ったごたる。『ほんなもひとつん話』 五助さんがん話が  
続いた。

直入かる参った人ん話 えーと水飲み場まじ来た。『水が飲める  
ど』ち カラカラ乾いたの喉に あたりゅ見回したが ねえ 消え  
ちよる そんな望みが絶たれた。えーと我慢すると 山の中にある  
見飲み場まじカキワケチ クダルト鈴んごたる かすかな水音に  
えーと辿りち一た。カンカラん葉を二つ折しち ちっとじゃが 水  
うすくうち汲むと 一気に口に移した。

『あーおいしい』 サート気分が変わると 反対にいままじ隠れ  
ちよつた 汗がいっぺんに ザート音たつるごつ にじみ出た。元  
ん参道にへモドルト ノボッテキタ人たちも 水を捜しよる。そん  
人たちにも説明しち 山の中ん水飲み場を しらせちゃつた。水が  
どのように大事か そしち出会った時ん 喜びもうありがてー。

元気なつたそん 馬力じ上り坂も 苦にもならんごつ 上る時に  
ゃ 自然の摂理に感謝しち 相對することが 人間の生き方でん  
あるんじゃなかるうか。勝手な人間の横暴は 見かけも悪いし心も  
貧しくなる。人間な一人じゃ いきられんもんじゃき 幸ちゃんも  
又ひとつ 勉強も知恵も理屈も 解った知った 覚えた時間でんあ  
ったごたる。

水の必要な事も 人を当てにしての 勝手な考えはやっぱ どけ  
なもんか。

## 女人禁制の習わし

全国には女人禁制の場が《1985》案外 あるようです。この宇曾山もじゃが そりゃ古くからん 修行ん場じゃつたき 頷ける場所。白衣を閃かして木から 木に天空から岩場にと 飛ぶ間にも自分の幸せより 悩み苦しむ人たちを 助けるそん執念が そうさせちよるんじゃろう。

宇曾神社ん場合は660Mん頂き 上るだけでも大変じゃが そこに価値もあるんが 修行する人たちにゃ 変えられん意志ん強さもある。又拝殿まじゃ子ども 背負い来たが以後ん 奥の院にゃ 厳しい石段もある 素足ん石段は女性にゃ 苛酷 ここまじ来た心はもう 神も認め休憩の間に 父親が代参も許さるるもん。となるき そりゃ女人を 忌み嫌うんじゃねえんが 根底にゃある。

奈良県大峰山《修行僧の山》、岡山県後山道仙寺《修行所》、大相撲土俵、高知県宇佐通港漁船《女神》、東京世田ヶ谷ロータリークラブ《規約》、新宿アンパン館《男性に限る》、青函トンネルなどの工事現場、地下鉄工事現場、博多追い山笠、なんかがそん当時一覽にあった。決して女性差別じゃのうじ 先人の気持ちとしちゃ 大事な 女性の心身を守る 手立てとしち 立て札も絶てたち 思われる。この記録は1985年のものじ 現在は改正されたり 場所によっちゃ 移動したのものもありそう。

神代の昔かる 女性は大事にされちこす 子孫ぬ残す重要な務めも 司るだけに真意は そんな形がこめられ 仄かな言葉による 人ん尊厳を守った 優しい心くばりが 形としち残された そうも理解されるよう。大事にしあう人間本能が 美しい気持ちとしち 女性を大切にした そんな例もいくつか 現れてもいる。天狗の白や赤の面も 世の中には かけがえのない ペアであるのも 如実に物語るようじゃきなえ。



方言の説明《70⇨75P》

- 70P じゃろうが…でしょうが。ヤッパ…やはり。そん…その。こん…この。あるき…あるから。デンネエゴタル…簡単でありそうだ。なとったんじゃろう…なっていたのでしよう。コホチー…ことに。まじに…までに。おくだり…借宮まで下りてくる。おるるんか…おりるのですか。
- 71P 虫封じ…子どもの独特な病気予防。いらんき…いらないので。ちょいと…少しの間。アブッチ…火であぶって。しもうた…しまった。コスリヨル…スリアワセテ。オリドコロカ…いるものではなく。イツンナカメーカ…少しの間に。それかるち…それからは。じゃき…ですから。あんま…あのまに。どげなつたか…どうなつたでしよう。クズシチシマウ…壊して。ありてーが…ありたいのですが。
- 72P 御戸開き…奥の院の戸をひらく。おこもり小屋…修行で寝泊まりしている場所。チョコット…ほんの少し。5銭2銭当時の貨幣で現在の約20倍くらいの価値。紙ニッケ…紙に紅色のニッケ水をつけたもの。こげなしが…こんな人たちが。もんじゃき…ものですから。虫よけ…防虫で主に稲の防虫用に。ぼちぼち…ゆっくり。よこえ…休みなさい。サンクリ…やりくりが。
- 73P ひじーわ…苦労する。ヘモドルワキモ…引き返す側にも。カカジッタ…ひきかいた。ヒリヒリ…ひどく痛む。くびっちょきゃ…束ねておけば。セーデータ…差し出した。のっき…急に。なじゅうじょる…しょげている。つくなる…しゃがみこんで。ショワネーカ…大丈夫なの。オオキニ…アリガトウ。コトンゴツ…大事に言う。みよそうち…みなひさいとおおげさに。スリムイテン…すり傷ぐらいで。シレットシチョル…冷ややかな風体で。すみつくれん…しかたもない話。ムカツイテン…腹がたつけれど。ユウシタモンジ…よくしたもので。チンマワシタリ…叩いたりして。ねらまるりゃ…にらまれると。ソバユル…母乳が滴りでている。とらんちーち…真剣捕まって。そびーち…引っ張って。

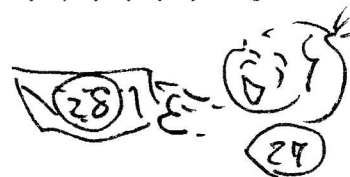
- どげーか…どうですか。そうんごたる…そのように思う。
- 74P あんまり…あまりにも。ホラケー…弱くて不安。タマジ…トキオリデ。いつんなかめーか…いつの間にか。ドシタンカ…どうしたの。モンジャキ…ものですから。もんでんある…ものでもありそう。
- 75P ふんと…本当に。いんにゃいいんで…いいえよいのです。ほんな…それでは。カラカラ乾いた…真剣喉の乾きが。カキワケチ…療法にかきわけて。カンカラン葉…さるとりイバラの葉。ちっとじゃが…少しですが。サート…さては。馬力じ…元気出して。やっぱ…やはり。どけなもんか…どんなものか。
- 76P そうさせちよる…そのようにさせている。まじゃ…までは。ほでは…それでは。となるき…となれば。ようじゃき…ようですから。

五助街道物語りも 『宇曾山』になると連れん 娘ん幸ちゃんの相手が たいしたもんじ途切れのう 7回もまゝ残ったごたるき 次回まじ残りが続くこちなった。けんど折角じゃき ひずかろうけんども1回 お付き合いしちください。続編№28号にゃ 次ん話が又 惜しなぎーが続きます。

夢多きふるさとん山、月の夜のみやげ餅、地蔵に叱られたバアさん、こぼれ話し、夢とロマン追って里の娘、あの道こん道、娘の心。が教えたもの、結び。の予定です。

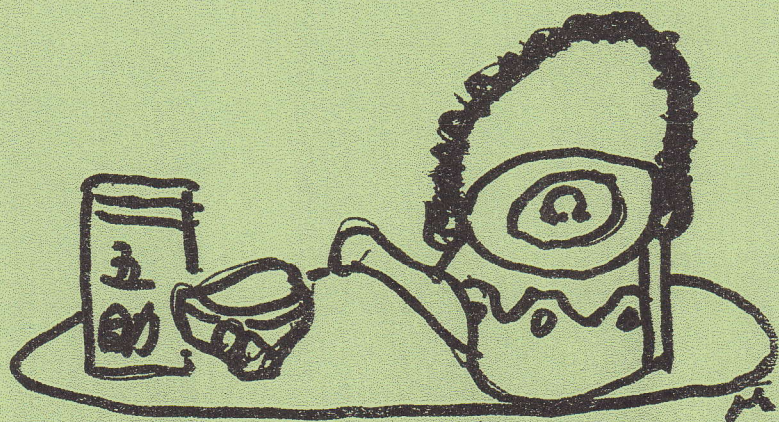
§ 宇曾に出ようか 荒木に行こうか 四辻峠の 思案顔  
ハ七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ §

§ アン娘年頃 姉さんかぶり いつか覚えた 馬子唄を  
ハ七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ §





# 兒童 信





★★★ 戦前布教第一人者国外でも ★★★

安楽寺ん先代住職は、そんな時にゃ珍しい、お説教に秀だた僧じ  
ゃつたき、国内は勿論のこと、要請じ国外ん布教にも、赴く機会が  
多かっただる。海外ん下命じゃ主に、支那一円じつたか、特にゃ  
北京に出向く時、1ヶ月あまりも出向いたごたる。そんな任に当た  
った時どま、仏ん心う伝ゆる、人間の技は伝来が、インドから中国  
を経由しただけに、それを聞いた人たちん悟りも、早かったんじ  
ゃろう。

それにしてん人が人ん、教えを代わっち伝える、心ん仲介は誰で  
ん出来そうじ、なかなか至難の技でん、あつたごたる。しかも言葉  
言語ん違う中国でん、悟りん極限を伝ゆる、心ん伝達、こん人に  
備わった特技でん、あつたんかん知れん。度たびん出会いによっち  
心ん通い合う絆も、あつたに違いねえよう。

伝える人話す人、そりゅう聞く人悟る人、仏教ん理念が通じあう  
時、そこにゃ人間本来ん、人の道としてん、崇高な思いが育ち、  
相手にすんなり、入りこむ信頼んかけ橋に、なच्चよるんじゃろう  
。教えられるんじゃねえ、共に入りこむ仏の、言わんとする思いに  
入った、馴染みの情熱が、それを形づくるのだらう。

かけ橋となったり、追求される理念に、真髓をさらけ出す、そんな  
信頼度は物や金じゃ、解決も思い合いも、難しくてん自分がそんな  
極点に到達する思いが、あるとすれば、悟りの世界は自ずと、開け  
ちも来るものでんあろう。責任を感じて眠れない、自分の布教が  
正しいんかと、自問自答する時、相手に教えらるるような、場面  
があると嬉しくもなるとか。

帰りの波路に我を見つめ直す時、改めて人の聖業は道半ばと思う  
。だけに悩みと喜びが、常に交差もしちよるごたるとか。

◇◇◇凍る間もなし水車◇◇◇

寒い朝どま薄氷が張り 軒先かるツララがさがちよる。学校に行く子どもたちが 途中ん山肌かる 流れ出よる水が 飛びまわっち周辺の 木の根やら抜け出た岩に 前ん日に湿った水が 氷ちーちツララになっちよる。えーと出た朝日に キラリ光る。もう長えなー30センチも なっちよる。

気の早えんがツージ行くと ポキン一本もいだ。ガリー気持ちゆう カミチータ。側じ見ちよつた男ん子 『負けちタマルカ』イサギユ ひきむしると バリーとくわえた。冷てえのなんのでんこれがタエラレン 朝ん風景じゃつた。中にゃもぎ取ったツララじ こんめえへ子の頭をゴツン。

『アイタ アイタ』 逃げまわるもんじゃき もうそれがオカシイ。みんなずれツージ 学校に行くぬ 見ちよつた ジイサン 『子供は元気がいいのう』 見送るが本当は自分どうも じゃ今かる50年ぐれ 前にゃおなじこつー シヨットンジャネエナ。冬なりゃこすん 子どもん楽しい時間。寒いこたあるか。

大けな井路ん水う 上手に使うち水車が 回りよるんも風物詩でんある。朝早う入れたんか 白に米がはいちよる ギーカタン ギーカタン 水車が回るたんび 小屋ん中ん機械が 上手に米をついちくるるき いいあんべーに来ると うまい具合にツケ Chol. 『こりゃケックシャ 白いわい』

流れ水じゃき生かした 労力がいつんなかめーか 仕事うしちくるる 農村の英知ん水車。年頃ん娘が嫁行く前に 喜びと不安を胸に時ん流れに 思いを馳せた懐かしい小屋。悲喜こもごもん 人生縮図が ここにん描き出されちよる。凍る間もねえ水車た ゆう言うたもんじゃなあ。



どこん家でん雑用はねえもん あるとすりゃそれは 仕事を雑にしちよるこちなる。ちっと手をかけちする そりゃ時間もいるけど 仕上がりがやっぱ違うもん。飛び込んじ来たお客さんが 忙しゅ頼み事うシュウカチ 思うち走りくんだが 玄関にそっと華が飾っちある そりゅ見たそんしは ほっと心が落ち着いたき ひと呼吸したら『そうじゃつた ありゃ言わんがよかった』事に 気がついたきそっと辞退したそうな。

物事にゃ『ま一遍考え』がよくあるもん。物取りに合うち腹がたつと 『あんしじゃわい』と 判断して名前がこぼれそうに。待った そこじ名前が出されると 思わぬ信頼まじ損なう。今一遍の心くばりこす 人間の信頼まじ決める。信頼がありゃ そん人ん心は大きな役割も果たす。

布教に渡って人に話す 語る時そん人に信頼が 聞いちよかったと言われる それが同じ人間でも 信じられるからでんあろう。遠い中国じ布教するそん 下命があるのもそん人にこす 出来る指導する力ん差でんあろう。帰り際に引き止められる そんな人間になるには 苦難もあるがやり遂げる 気迫も大事と思われる。

◎◎◎ 方言説明 ◎◎◎

79P ジャつたき…でしたので。ごたる…そう思う。支那…現在の中国。どま…など。たんじゃろう…なのでしょう。してん…しても。あつたもんかん…あつたのかも。ねえよう…ないよう。なच्चよるんじゃろう…なっているのでしょう。波路…帰りの舟での航海。

80P ツララ…水が凍ってさがった状態。なच्चよる…なっている。えーと…やっと。ツージ…飛んで。もいだ…取った。カミチータ…かみついた。タマルカ…腹がたつて。イサギユー…てばやく。アイタアイタ…痛いよ。オカシイ…笑い話。みんな連れ…いっしょに。ジイサン…男の老人。シヨットンジャネエ…していたのでは。井路…水路。



はいっちよる…いれてある。ギーカタン…機械の動く音。いいあんべーに…都合のよいような。ツケチョル…精米されている。ケックシャ…なかなか。なかめーか…時間の経過に。くるる…くれる。ここにん…ここにも。

81P どこん…どこの。あるとすりゃ…あるならば。しちよるこちなる…していることになる。かけち…心くばりして。けんど…けれども。やっぱ…やはり。シュウカチ…しようかと。そんし…その人は。そうじゃつた…そうだった。ありゃ…あれは。まいっぺん…も一度おちついて。あんしじゃわい…あの人と。こぼれそうに…つい口からでそうに。そこじ…そこで。からでん…からでも。こす…その人ゆえに出来るから。氣迫…根性や責任感も大事。

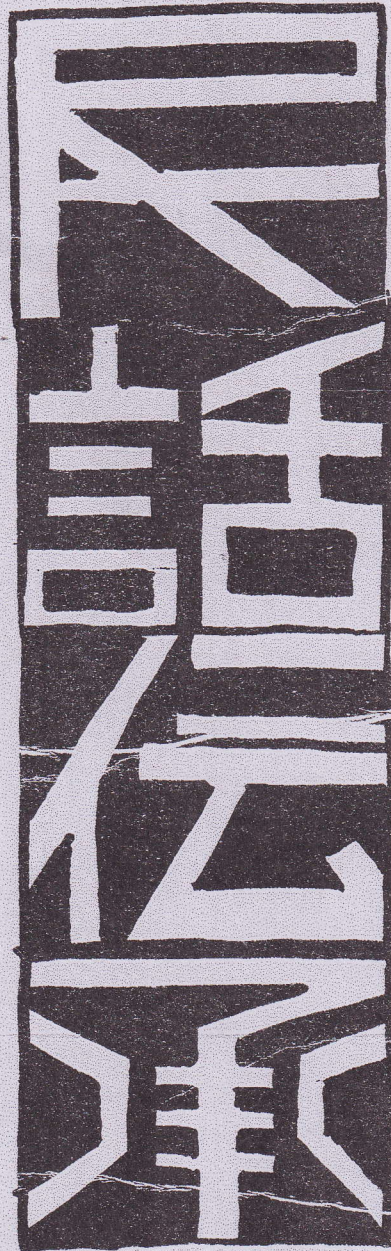
どげな寒い朝でん 流れ水はヨッポスン 事でんネエカギリ 下底を流れよる水まじゃ凍らない。じゃき動きはちった ヌルーデン《遅くでも》 水車はボチボチ回ちよる《回っている》 そん動きが固い氷にも伝わると 隙間が出来たり水ん流れん 振動じ氷も砕けち表面の 薄氷も連れナウもんじゃ。

じゃき『精出せば凍る間もなし水車』ち 人は讃え感謝するもん 水車も『こげ一人間の役にたちよる』ん なら頑張らねばち奮起するこちもなる。責めてん褒めらるりゃ 悪い気はせんき やる気が起こる。『責め道具より褒め言葉』ち 言う格言があるが 人は感情ん動物でんあるき 『おだてられちよる』ち 解ってん言われると 騙されたなんか言わんじ 素直に従うんも利口者かん。

騙され上手もときにゃ 儲かる事もあるもんじゃき 損して勝ちを取るんも 作戦上手かん知れない。人間は食わねば生きられないとなりゃ 騙された教訓は 二番煎じは取り合わない 鍵も大切に持ち合わせりゃ 上の手品師かんしれんが。









## 宿場町の気品宿『さくら屋』

江戸期の殿様が泊まったとさるる 野津原御茶屋があった当時を 回想すりゃ現在風に 判断した時にゃ高級ホテルかん知れん。豪華ちゅうよりゃむしろ 質素じゃつち奥ゆかしい 質すまいん宿じゃろう。御茶屋入り口ん東側ん 防火山ん横にキッチンと 囲いとった宿じゃった。

料理にしてん野津原らしい 材料が並ろうじよる器 山菜珍味に地元ん食材が生かされ 慰めらるる中に優雅さも あっち上方ん京料理か 江戸ん名残りが隠されたか、そげな余韻が残るんも肥後と 鶴崎に向かう中継地ん こかゝ野津原らしい 口慰めん 隠し味があったんじゃろう。

奥座敷を開くるとさやゆれん 風が旅ん疲れを癒しちくれ 湯あがりん浴衣が心ゆくまじ 落ち着かせもくるる。どこじ吹くんか尺八ん奏でる 妙なる音が旅ん思い出にと 主が演出するんか耳をそばたて 心静かに染みとおるごたる 名曲の束の間の究極の世界に 誘っちもくるる。

やおら過ぎた頃になっち 板張り廊下に白足袋んスリ音 運ばれた里の心くばり料理。仄かに香るその新鮮さが 妙に心捕らえちさまざまな 手法ん料理の繊細さに 思わず固唾を飲む。女将の案内に連れだった 可愛い接待の若い娘たち どこまでも心の『おもてなし』が 組み立てられている。

ご利用のお礼ご挨拶に続く お膳ぶの配置作法 その一挙一動作が操り人形のような 上品にもあって素朴さが どこまでも旅の疲れを 利用した感謝の気持ちを そっと示してくれち 居ながらにしち京の座敷か 江戸の華町かん錯覚も招くごたる。これまさしく おもてなしの気持ちじゃろう。

魚は府内周辺が海に近え 山菜は周辺かる手近う入る。高原に育った野菜あり 山林の恵みを受けたんも 山んくぼ地ん味が原野に伸び伸び育つ 動物や鳥 川の恵みにも事欠かぬ 野津原じゃ農耕産品とともに 手際んいい調理技法 手作り長年の味つけ 食材を生かす根本理念が 効果を満点に現るる。

米の粉、小豆、貴重品が形かえち 姿まるやかに変身もする。使い勝手のいいそげな 材料が板前の包丁に 踊らせらるると 不思議な芸術が舞台を 飾っち素人にゃ回答至難な 視覚三味の珍品に仕上がっち 驚く刹那のまさに 芸術でんあろうごたる。箸が迷い目が巧みに動く そこには人ん心ん優しさが 醸し出されよるごたる。

山芋が里芋が 粟や黍 山椒 柚子 柿栗棗 田のくろにあつた 素朴な青物も 姿変えちごあいさつ。心踊らせる料理ん奥義は ここじゃきこす 味わえ楽しめるんじゃろう。殿様もそんな時ん しつらえられた妙味にん応えてー 思いがこみ上ぐるごつ 旅んしたちもぐっと 思い込む嬉しい瞬間は 宝物でん受けた思いに 感極まるとん声も。

明日はお発ち なごり惜しい宿の宿命。もし雨が降つたならと欲は 許されん。予定もあろうし先の都合も あるお互いの人生双六でんある。またの機会に再会を 楽しむ人の出会いこそが 元気に生きちよる証でんあろう。『気をつけて またのお泊まりを』 見送る側も 送られる利用者も 再会の日を楽しむ人生はきつと 幸せでんあろう。

伊能忠敬が全国測量じ 野津原にも泊まった。勝海舟も坂本竜馬と 長崎往復に泊まったんじゃ なかろうか。利用した詳しい記録はねえけんど あっち当然の事じゃろう。それだけ当時ん宿としちゃ 素晴らしい気品のある 高級ホテルじゃつたよう。





朝シャンしち自転車じ 学校まで飛ばせち行く。朝シャンした育ち盛りん男ん子ども 飛ばせたお陰じ途中じ ヘヤスタイルがピシリ決まった。ところがじゃ 柿の坂を上る女ん生徒 きちんと仕上げたはずが 寒さが一枚上じゃき 凍ったごつなっち こっちゃ同じピシリでん 固うなったピチリ。

それが平成ん20年前後かるん それが戦後になると ちょこっとオカチャンの 鏡台にあったクリームを 忍ばせち化粧する仄かな 年頃でんあったんじゃろう。椿油ん香りはまこち いいきつけちょつたら 何と蜜蜂が寄っち来た。慌てち追い払うたが 蜂 やつぱ命がけん蜜集め いっときついち来たが……。

戦時中ん食い物ち言うと 朝は麦飯に味噌汁 漬け物が決まりじ 前ん晩に食うた『だんご汁』ん 残りがあっち も一遍煮ると底に焦げつく そんな旨さが兄弟喧嘩にもなった。それだけじゃねえ 『甘汁』ん残りゃ 冬ん冷てえのもの 歯に染むごたるが そんな旨さは素人にゃ 難問じゃろうなあ。

焼米が溝刈りしち作ったら オトシに入れち学校に行くと 香りがするきすぐ解る。『焼米持ちちよるなこっち出せ』 しもった そげえ思うたがもう 後ん祭りじ取り上げられた。『しもった休み時間にやるわい』ち 約束したにダマシタ事なった。後じ『コライイノ イニガケニやるき』『いいんど』

友達たいいもんじ 百姓じねえとなかなかねえき 持ちち来たがもう見つかったら ドシモナラン。それでん友達が 帰り道じ食わんじゃつたき 全部くれたぬ見ると 『友達たいいもん』ち 秋になると思い出すち言う。今は米も植えんでんいい とか植えてん安い値段がつくき 厳しい経営になるごたる。

キマリじゃき先生も 取り上げちみせしめにするが 帰りにゃきっと戻し『気をつけにゃのう』 わう解る。

大分まじ久しぶり歩いち 買い物に出かけた二人 大道踏切り  
じ汽車が入れ替えしよった。煙突かるモクモク出る煙り タマガ  
ッチいつ時見よったら ときどき石炭ぬ炊くもんじゃき 煤煙の  
中にそんカスが マダッチョツチ ダマシふかした時どま そん  
石炭のコンメーンが 一緒に吹き上げち 鼻んすにはいった。

側に裁判所があつたんか 偉い格好した服ん人が 出ち来たき  
きオズオズ聞いたら すぐ側にあるち話しちくれた。やっぱ威厳  
のあるしじゃろう が平民なそげ一簡単にゃ 話せんきもう諦め  
ち 西新町ん方に歩いたが まゝ店屋もありゃ 人通りも多いき  
『迷子になるなや』『お前こそドキデン行くなや』

『もちよいと汽車を見るか』 真剣珍しいもんじゃき 見てえ  
んじゃろうき 見るこちしたら 側ん線路がダマシ動いた。びく  
っとしてジット見よると 貨物列車が入ちきた。それが通つた  
ら またガチャと線路が動いた。どこかじ誰かが動かすんか。そ  
うこうしよったら リンぬ鳴らしち『アイスクャンデー』 売り  
が来た。線路ん話聞いたら 信号所がポイント切り替へと。

木の上まじへモドッチ 『アト1里じゃき 慌てんでん 帰り  
つくわい』『じゃのう ほんな塚野に塩水飲み行くか』『じゃの  
う』 友達たいいもん なんか話がゆう通ずる。あんげこんげ  
しよるとバスが来た。銭はあるが 高えきもう歩こう。大分温見  
ん～間を走る黄色んバス。『歩きゃなんか又ヤシボものや』 話  
しゃすぐ決まるんも やっぱいいトギじゃきじゃろう。

『やんな顔が真っ黒いど』『や やんがんも じゃねえか』  
顔見合わせち大笑い それもそんはず汽車ん 見すぎじゃろう。



★★★ 馬子唄で結ぶ故郷日記 ★★★

小無田かるいよいよ今市に入った 馬子ん五助さんがん馬子唄は  
なしか 爽やかさが一段と鮮やか それに肥後街道も通っている。

§ オアよ勇めよ 宿場はそこじゃ あれが街道の石だたみ…  
ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ。

§ 里の丸山迎える小鳩 小無田過ぎたら鳴いている…  
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ。

§ 昨日屋形木 明日はお町 タンス長持ち 祝い唄…  
ハ 七瀬のせせらぎ さや揺れイヤサカ。ホイホイホイ。

§ トチの高岩 朝日に映えて 日向道から初詣で…  
ハ 七瀬のせせらぎ 今年もよろしく ハイハイハイ。

§ 白熊獅子舞い 祭りの夜は 恋に焦がるる 出合い橋…  
ハ 七瀬の谷ばた ホタルもスイスイ ホイホイホイ。

今市の町から石合に下ると 広がった天領ん南原ん 日当たりも  
のどかな谷に 鈴を鳴らすような水音 水鏡に我が顔写す乙女が  
祭りに 出会う望みを託した夜の月が 橋を渡ると隠れてくれる。  
祭り拍子ん 太鼓が響き勇壮な姿ん 獅子舞いが見物する人たち  
を 楽しい夢ん世界に誘い入れる。

§ 宇曾に行こうか 荒木に出ようか 四辻峠の思案顔…  
ハ 七瀬のたにあい 紅葉もチラホラ ホイホイホイ。

§ 小原高沢さと道辿りゃ エビネ咲くとは イジラシイ…  
ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ。

めぐる山道にゃ四季それぞれの 移り香があって 心癒し慰めち  
くれる。故郷はいつ来ても懐かしく 優しく迎えてくれる 母の  
里だけにほっとするもの。

荒木谷に下ると山肌は シャクナゲン花に飾られちよる ふと  
思いだすんが母ん顔。母は達者か合いたい 見たい話したい。

- § 母は達者か歩けば三里 山が高うでままなにぬ……  
ハ 七瀬のせせらぎ 小雪がチラホラ ホイホイホイ。  
§ 馬子の五助さんの 唄聞いたなら 涙かくして我慢する…  
ハ 七瀬のせせらぎ 明日も雪か ホイホイホイ。

五助さんに慰められ 何回辛抱するち決めたか ゆう続いたち  
嬉しゅうもなった あん日あん時 すまんなえ おおきに。はる  
に上っち八幡様に参ろうか 今日も元気じゃつたき。

- § 白家超えれば 里ん灯見ゆる あれは丹生山練ヶ迫…  
ハ 七瀬のせせらぎ 桜も咲いたか ホイホイホイ。  
§ 駕籠で行こうか あの石だたみ 宿の障子に灯が入る…  
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ。  
§ 髪を整え嫁ぐ日近い スリの娘が米をつく…  
ハ 七瀬のせせらぎ 祝い唄 ホイホイホイ。

馬子唄に乗せて今市を 一周すると素朴な自然が いっぱい残さ  
れてその谷に 清らかな湧水が流れて 東に下って行く。人間の  
営みがここでは 夢とロマンを香らせち 多くん 人たちのお越  
しを待っています。江戸期間には宿場町 岡藩の『おばね街道』  
とした 石畳が全国的にも珍しく 残されて風格が保存されて  
多くの人たちに見返されている。

地元の人たちが献身的に 大切にした何よりの証。これからも多  
くの皆さんの足跡を きちんと残して 先人が苦勞した文化財を  
後世にまで 継承したいものです。

- § あん娘年頃 姉さんかふり いつか覚えた馬子唄も…  
ハ 七瀬のせせらぎ きら星輝く ホイホイホイ。





野津原方言單語  
乙心ガリ





方言場面《2》　ここまで27146語が掲載されましたが  
残りを追いかけますと残りが半分あまりありそうです。後に出  
てくる方言単語もお楽しみにお待ちください。

に ニローダ……睨んだ目が鋭い、怖いような目が見つめて。  
ニローデン……睨んでいても、睨まれても怖くはないが。  
ニロージョル……相手発見、睨んでいるので、狙われたのかも。  
ニワッタ……煮ることで割れる、柔らかに煮あがる。  
ニワリン……柔らかに優しくする、笑顔は表情にも出るもの。  
ニワドマ……庭などの清掃、庭先を奇麗に清掃する。  
ニワンスミ……庭のすみずみにまで、すみずみまで奇麗に。  
ニワサビュ……庭先で選別作業を、庭に帰って選別する。  
ニワカブゲン……急に富裕家庭になって、成金家庭の晴姿。  
ニワンワキ……庭の回りに気配りを、庭の片隅にも気をつけて。

ニワリモン……不良品で格下げ、不始な品物で、不合格品。  
ニワアギユ……庭で選別した製品、選別が終わって俵詰め。  
ニワサビ……庭先の寒さにも我慢、庭先の隙間風の辛さ。  
ニワトリメシ……ニワトリ肉の入った飯、鶏肉入り鳥飯。  
ニワント……庭の入口の戸、勝手口の開き戸、出入りの簡易戸。  
ニンゲンナ……人間は、人間のあり方は、人間故の生き様。  
ニンニカウメー……にんにくは美味しい食材、味付けの王様。  
ニンノ……煮るのですか、似せて創るのですか、煮てこそ。  
ニンニガシ……二とニは四、掛け算の基礎、初歩の暗記法。  
ニングリオウチ……まつわりついてふざける、じゃれあう。

ニンニカ……にんにくは、食材につかう味付け、栄養価も。  
ニンゲンサブタ……人間で流れを止める、しかし水量には無理。  
ニンリキャ……人の力には限度が、うぬぼれも限りあり。  
ニンキキョウゲン……人気のよい素人芝居、田舎回りの芝居。  
ニンキマジャ……人気までは年季が、人気取りは苦勞多し。

ぬ ヌーデンタダド…飲んでも無料らしい。お接待とは気の毒な。  
ヌージ…飲んで、飲みましたので、ご馳走さまでした。  
ヌータリ…縫いましたら、縫うた後はたたみまして。  
ヌーチャラン…縫ってはあげないので、期待しないでね。  
ヌーマニジャ…縫う間にほかの仕事を、その間に準備して。  
ヌージョル…飲んでいるようで、飲んだ間にこちらはこちら。  
ヌーチミヨ…縫って見たらどう、縫うことから和裁は。  
ヌーカ…縫いますか、縫うことが幸せにもつらなる。  
ヌーキ…縫いますから、縫うので宛にしない、縫う間は休み。  
ヌーケンド…縫いますが当てにはしないで、自分のだけ。

ヌーコチニャ…縫うことには出来ても、縫うだけが目的で。  
ヌーソベ…縫う側に見られると、縫う姿勢も大事な事。  
ヌーテン…縫うても人のまでは、縫うのも自分の分だけで。  
ヌートン…縫いますが、縫うのはなんとか、縫いますよ。  
ヌーナリャ…縫うのなら最後まで、縫うからには仕上げまで。  
ヌーノキ…縫うその側にきたので、縫う側で見られては。  
ヌーヘリ…縫うすぐ側での見学は、縫うのに見られると。  
ヌイノ…縫うた側から検査となればすぐ側での検査には。  
ヌイナリ…縫ったとおもったらう、すぐ試験会場には。  
ヌイダンナラ…脱いだのなかたずけて、脱いだら整頓を。

ヌイダママジャ…脱いだらしまつを。脱いだままでは。  
ヌイカキュ…縫いはじめたままに、縫う側から用事が。  
ヌイクウジ…縫い込んでしまった、縫うのに失敗した。  
ヌイバリュ…縫い針はきちんと整理、縫い針こそ命です。  
ヌイジャレ…脱いであげなさい、脱いだら整頓して。  
ヌイダニ…脱いだのなら整頓して、脱いだ後は着替えして。  
ヌイジ…脱いで着替えて整理整頓、脱いだらすぐ整頓。  
ヌイキルタ…縫う事が出来るなら見直しも大事な仕事。  
ヌイアゲチ…縫いあがったら検査も、うぬぼれは最低。



ぬ ヌウタ…縫えましたので、縫うことが出来ました、縫えたよ。  
ヌウニ……縫いますから、縫うてもよいですか、縫うので。  
ヌウカ……縫うのですか、縫えるかな、縫えたら大丈夫。  
ヌウチョケ……縫いなさい、縫うておきましょう、縫うこと。  
ヌウチョケレン……縫うのは無理です、縫うには不安がある。  
ヌウリー……時間がかかって、遅すぎるので無理、暇がいる。  
ヌウテ……縫ってください、縫ってほしいのですが、潜って。  
ヌウタナイイガ……縫うたまでは、仕上がりに心配で。  
ヌウソベ……縫っている側に、縫うのを見て覚える。  
ヌウテン……縫うても。縫うたが仕上がりが、結果が心配な。

ヌウネキ…縫っている側で、縫うのを見て覚える、縫う見学。  
ヌウハテ……縫うのを見学する、縫う側で見られると。  
ヌウコタヌウガ……縫うのは出来たが、縫い上がりに不安も。  
ヌウチミリヤ……縫うてみると、縫うには技法が必要。  
ヌウジョケ…飲んでおけば、飲みたいようなら。裁縫すれば。  
ヌウダンカ……飲んだのなら、飲むダケデナク計画的に。  
ヌウダヤ……飲んだのですか、勝手に飲んででは迷惑だが。  
ヌエタデ……縫えましたから、ぬえたら上手が要求される。  
ヌエタ……縫えましたので、縫えるようになりましたが。  
ヌエレン……縫えないのでお願い、縫うのは無理ですから。

ヌエメー……縫えないのでは、縫えないようなら早めに断り。  
ヌエリヤモウ……縫えるようならもう、縫えるようになれば。  
ヌエルリヤ……縫えるようなら、縫えたら頼みたいが。  
ヌエルル…縫えますなら、縫えられるならば、縫えられるのなら。  
ヌエチョル……縫えていますから、縫えるようですから。  
ヌエリュウトン…縫えれても仕上がりが、上手に出来ないと。  
ヌエチョリヤ……縫えているけれど、縫えただけじゃなくて。  
ヌオタチ…縫いたいけれど、縫いたいが、まだまだ無理です。  
ヌオートン……縫いますとも、仕上がりは請け負えないが。



ぬ ヌオーカナ……………縫うことにしようか、縫ってみませんか。  
ヌオウチオモウ……………縫いたいと思うが、縫ってみるのも。  
ヌオモンナラ……………縫うのなら早くきれいに、縫わせたら一番。  
ヌオウタオモウガ……………縫いたいと思うが、仕上がりに不安も。  
ヌオート……………縫いたいと準備したが、縫うのはよいが少し。  
ヌオーモ……………縫うのも後が、縫うても果たして出来が。  
ヌオドチ……………縫いたいと準備したが、心配ないので始めたが。  
ヌカー……………糠はどこにあるの、糠を捜しているが。  
ヌガシチョケ……………脱がしてあげたら、脱いできちんと始末。  
ヌカシチ……………追い抜いて、忘れて抜かした、休みなら抜かせ。

ヌカマジリ……………糠にまみれた漬け物の味、糠に漬けた野菜。  
ヌカブクル……………糠を利用した掃除雑巾、入浴利用の糠袋。  
ヌカス……………追い抜いて、順番を抜かして、栓を抜くと。  
ヌカズキュ……………糠につけ込んだ野菜、糠を利用した漬け物。  
ヌカゾーキン…糠を利用して掃除に使う雑巾、ツヤダシ雑巾。  
ヌカソ…追い抜きましょう、欠席で抜かして、都合で抜けた。  
ヌカル……………湿田のぬかるみ、泥田にはまりこんで。  
ヌカツタンカ…ぬかるみに難渋したよう、雨上がりの湿地帯。  
ヌカマミリュ…糠にまみれた精米所、水車の糠が微風に舞い。  
ヌカンジョケ……………抜かないがよい、抜くと水があふれる。

ヌカンマメ……………抜かないままに水を貯める、抜かぬままに。  
ヌキトナル……………抜きたくなくても我慢、抜く機会を間違えぬ。  
ヌキャ……………抜けば後の始末が、抜く機会を間違えないように。  
ヌキグチ……………トンネルの入り口、トンネルに入る周辺。  
ヌキーニ……………暖かくなって、暖房効果がある、温かな季節に。  
ヌキンナケ……………トンネルの中に、トンネルに入ると変わった。  
ヌキヨセン…抜いたと思ったら、抜くと濁流が、抜いた刹那。  
ヌキアシユ…忍び足の行動、静かにする忍び足、狙い定めて。  
ヌキンハネ……………トンネルの先方、トンネルの最先端。



ぬ ヌキュ……………暖かくなった、温くしてから遊びに、トンネル。  
ヌキグチン……………トンネルの入口の、トンネルの周辺。  
ヌギノ……………脱いですぐの、脱いだのなら始末も。  
ヌギナンナ……………脱ぎなさんな、脱ぐのは後でよいから。  
ヌキー……………温かな日になったよう、温かで凌ぎよい日。  
ヌキイト……………暖かいと言う、暖かいから遊びにと誘う。  
ヌギホタル…脱いでその当たりに散らかす、脱いだら始末も。  
ヌギヨセン……………脱いだとおもったら、脱いですぐ入って。  
ヌキャーイイ……………暖かいのは気持ちがよい、温かな日は好調。  
ヌギオクレチ……………脱ぐのに手間どって、脱ぐのは苦手で。

ヌキーヤ……………暖かいと言われて、温かな連絡で安心する。  
ヌキグレガ……………トンネルくらいがよい場所、暖かいくらいが。  
ヌクデン…暖かくても天気でない、温かで天気なら尚よい。  
ヌクウ……………温かな天気模様、温かなら万事好調だが。  
ヌグウタカ……………よく拭きましたか、綺麗に拭ってこそ。  
ヌグウチョリヤ……………拭ってるので、綺麗な仕上がりになった。  
ヌクナッタ……………暖かくなったので、好天に恵まれたので。  
ヌグチョケ……………拭っておかないと後の人が迷惑、綺麗な始末。  
ヌクメチャレ……………暖めてあげなさい、暖かくしておけば。  
ヌクンナ…抜きますか、抜くと洪水の心配が、追い抜く競技。

ヌクナイイガ…追い抜きはよいが、抜くときは周辺にも配慮。  
ヌグマジャ……………抜くまでは油断禁物、抜いたら洪水予防も。  
ヌクヌクジ……………温かな恵まれた環境で、暖かいのは幸せ生活。  
ヌクモル……………暖まって幸せに、身震いがやっとな癒される。  
ヌクムリヤイイ……………暖めればすぐ食べられる、暖めて再利用。  
ヌクメチ……………暖めて治療に使う、暖めて味を楽しむ。  
ヌクデンワリ…暖かくても逆影響も、暑さに近くなる用心を。  
ヌクルデ…抜けるので用心を、追い越しの瞬間が。抜けたら。  
ヌグルカン……………脱げるかも用心して、脱げたら恥ずかしい姿。

ぬ ヌレ Chol……濡れているので、濡れたままではあまりにも。  
ヌクムル………暖めてあげたら、暖めることで元気になる。  
ヌクーダカ………充分暖まったですか、やっと元気取り戻した。  
ヌクルド………抜けますから用心、ぬけたらあと始末を。  
ヌクナッタ………暖かくなった、天気が回復して陽気がよく。  
ヌクメチャレ………暖めてあげたら元気になる、冷えた体に暖気。  
ヌクリャセン………抜けないので油利用、無理は禁物です。  
ヌケデタナ………抜けてやっと落ち着いた、追い越してトップ。  
ヌケンゴタル………抜けないように、奥の手はないものか。  
ヌケタンカ………抜けぬようではっとする、抜けぬ苦労も大変。

ヌケノン………抜けたと思ったら用事が出来た、一つ終わると次。  
ヌケノニ………抜けたと思うと次が待っている、慌ただしい日程。  
ヌケカケタ………ぬけそうだから準備、追い越しのいい機会。  
ヌゲタラ………脱げたらあと補充を、ぬかさぬ工面も大事な。  
ヌゲタキ………脱げたものだから、すぐ替えの準備も生活上手。  
ヌゲンキ………脱げないので大丈夫、日ごろの準備が大事な。  
ヌケヨセン………追い越したとおもえと追いつかれ、練習効果。  
ヌゲトナッタ………追い越し作戦は、追いかけられそうに。  
ヌケンモンジ………追い越せないから、次の機会を捕らえて。  
ヌゲレン………脱げない苦労があるが、危険は回避できる。

ヌゲトナッチ………脱げそうになったが、ここで脱いでは。  
ヌゲタ………脱げましたよ準備は、次は奥の手がでるか。  
ヌゴカン………脱ぐかと思うと、奪われたりする、人生双六か。  
ヌゴドチ………脱ぐ準備すれば機会は、慌てて失う事もある。  
ヌゴカノウ………脱ぐのは難しい選択、焦ると触れるだけに。  
ヌゴモンナラ………脱いだなら失うか儲けるか、見極めも大事。  
ヌゴーチオモウ………脱いだら覚悟も大事、そこまで覚悟なら。  
ヌゴーチカチ………ぬぐ覚悟になれば、信頼が左右する正念場。  
ヌゴー………脱いだら信頼が鍵に、自信があればそれも鍵。



ぬ ヌシトワロ……盗人ですから、盗んだ犯人ですよ、泥棒です。  
ヌシガアリヤ……持ち主があるのなら、持ち主はいませんか。  
ヌジクッチ……塗り汚してきたない、乱暴に塗りさがして。  
ヌジクラレタ……塗り荒らして汚くなった、乱暴に塗りまわし。  
ヌシンゴタル……持ち主のようですが、この場所の頭かも。  
ヌシンネエナ……持ち主がなければ、持ち主がないと処分。  
ヌシャオランカ……持ち主はいませんか、責任者はいないの。  
ヌシトニヤ……盗人には関わらないので、盗人とは関係ない。  
ヌシャ……主人は、責任者は、主な代表者は、持ち主は。  
ヌシカタン……あなたの家の、お前の家のものではないの。

ヌモウトン……盗まれても仕方ない、盗めば泥棒と言うから。  
ヌスマレ Chol……盗まれたので、泥棒に入られたようだ。  
ヌスマレチ……泥棒に入られたよう、盗まれた被害者だから。  
ヌスムンカ……盗むのですか、犯罪になるんですよ。  
ヌスメーカ……盗まれなだらうか、盗むと大きな犯罪になる。  
ヌスツトンガキ……盗んだ餓鬼には困ったもん、泥棒に追い銭。  
ヌスピグシ……盗む癖のある人間は、泥棒する性格は。  
ヌスメテン……盗まれたとしても、盗む魂胆がおそろしい。  
ヌソットチ……忍び足で動く性格で、動きが陰湿な性格者。  
ヌソリ……忍び足の動きの性格者、のっそりと動いて陰湿。

ヌタクル……沼で争い合う、練り土の中で荒々しい動きをする。  
ヌタバジ……沼地のなかで練りまわす、泥んこまみれの動き。  
ヌタリ……ぬれっとした性格な動き、陰湿な動きで嫌われる。  
ヌタダ……練り回したような湿地の場所、泥まみれになる様子。  
ヌタ……練り回した湿地の場所、猪が練りまわす好みの場所。  
ヌツチョケ……縫っておけば大丈夫、塗っただけで大丈夫。  
ヌッテンハグル……塗ってもすぐ取れそう、塗っても一時凌ぎ。  
ヌッタナイガ……塗ったけれど、塗れば少しは楽になりそう。  
ヌツチャラン……縫ってあげないから、塗ってもすぐ取る癖に。

60



ぬ ヌッペラ…まっしろ状態、平たく変化のない、たあいのない。  
ヌッチャロウ…縫ってあげましょう、塗ってあげましょう。  
ヌッテンノヤ…塗ってもどうかな、縫ってもうまくゆくか。  
ヌッタチューナ…塗ったと言うのですか、縫ったけれども。  
ヌッタンカ…縫ったのですか上手い、塗った作品は上出来。  
ヌッチミテン…塗って見たがいまいち、縫ったけれど無理。  
ヌッタンナラ…縫ったのなら見せて、塗った場所はどうか。  
ヌネリガ…粘りがあるので丁寧に、扱いにくいので用心。  
ヌノコベベ…寒さの防寒綿入れ、子守り用の防寒衣服。  
ヌヒトワリャ…盗人に入られて被害、泥棒の被害者に。

ヌヒトヤロ…盗人に入られた、空き巣に用心しないと。  
ヌブル…延べて料理に使う、手伸べした食材の利用で。  
ヌブチー…延びますと言うので、延ばす技法は難しい。  
ヌベテー…延ばす練習が上手になる鍵、延ばせばどこまでも。  
ヌブゴタル…延びますから練習すること、延ばす訓練は初歩。  
ヌベヌベシチ…延ばすことから上手に、延ばせば細長く。  
ヌベチ…延ばした後は平たくしたり、延ばして裂いて。  
ヌベット…ぬめりがあると至難の技、ぬるぬるの料理方法。  
ヌベタクッチ…延ばしながら割いたり、広げたり、丸めたり。  
ヌベレタカ…延ばしができたら次々と、広がる技法は上級に。

ヌベヌベ…延ばし延ばして技法が広がる、延ばす基本が大事。  
ヌマンナケー…沼の中に入って戯れる、沼遊びに快感も。  
ヌメリャアル…ぬるぬるがあるから旨味が、苦手は上手に。  
ヌメリケーチ…ぬるぬるが上手になる鍵、上手も失敗から。  
ヌメッチ…ぬるぬるするが技法が解決、さばきかたが基本。  
ヌメヌメぬるぬるも上手になる鍵、苦手が上手に進む。  
ヌメリモドッタ…ぬるぬるが活気になると技法が効く、技勝。  
ヌメリユトレ…ぬるぬる取るのも技法、技には技で挑戦。  
ヌメタリマワル…どろん子の戯れ、無心に遊ぶ姿は天使。



ぬ ヌラットスル……なめらか見かけの状態、見た目は美しいが。  
ヌラリクラーリ……不安定な様相で、確実性のない人間像。  
ヌラリー……頼りがいのない人間、しっかりしないと不安な。  
ヌラレチシモウタ…塗ってしまくったので、塗った後で気が。  
ヌラリュウト…塗られるのであるのに、塗られてよかったの。  
ヌラレテン……塗られても構わないのかな、早めに打合せ。  
ヌランカン……塗られないかも、塗らないと思うが。  
ヌラルリャ……塗られたのなら、早めに言えばよかったのに。  
ヌリトウデン……塗りたくても塗らない人も、いつの間にか。  
ヌリイナ……急がない性格の人、ゆったりした慌てない人。

ヌリナガラデン……塗る仕事の合間でも、修正希望は早めに。  
ヌリアゲチョケ……塗が終わったのなら、仕上げておいても。  
ヌリベタン……ぬるのが下手だから、塗る技術がいまひとつ。  
ヌリカクルル…ぬって隠れてしまったよう、塗ってごまかす。  
ヌリタラン……塗が残った場所が、塗ってない部分があるが。  
ヌリクウジ……塗りこんでしまった、予定外に塗ってしまう。  
ヌリソコノウチ…塗るのを失敗して繕う、塗りかたが下手で。  
ヌリヨセン……塗るのに時間が足りなくて、次の仕事の時に。  
ヌリマクル……塗る上にまた塗って、仕上がりが心配だが。  
ヌリスゲチ……塗り越して予想以上に、余分がいいとは。

ヌリーナ……落ち着きすぎて遅れる、予定に出来上がるの。  
ヌリシナ…塗ったと思っていたら、塗ってすぐに別の注文が。  
ヌルット……なめらかに仕上がったが、締まりがない感じに。  
ヌルジデン…暖かなくても、温度が低いけれど、塗る肌で。  
ヌルヌル……ぬめりの感触がよくて、仕上がりが色気がある。  
ヌルカリャクビー…温めが低いなら燃やして、追い炊きして。  
ヌルネキジ……塗る側で話つけられて、塗る邪魔になるのに。  
ヌリデンイイド……ぬるくてもよいから、熱くなくてもよい。  
ヌリトン……ぬるめが好きだから、少し追い炊きしておくれ。

ぬ ヌルナハエー……塗るのは上手じ早いから、業師は違うもん。  
ヌルソベ……塗る側で熱心に見いる、見惚れるような塗り具合。  
ヌルリャセン……塗れないから、濡れませんで、濡れて見る。  
ヌルジャノバン……暖かい温度が延びもよい、寒いと苦勞する。  
ヌルカッテン……暖かなくても風呂は天国、貧な者の入湯。  
ヌルデンハオカメ……少しは温めでも追い炊きします、極楽に。  
ヌルジ……塗る地肌、ぬる湯でも長く入るのがこつ。  
ヌルマンユ……少しぬるい湯に、少しずつ追い炊きして暖まる。  
ヌルメヘール……ぬるま湯にしっかりつかって、自然に熱く。  
ヌルヌミチョコウ……塗るのをしっかり見て覚える、盗み授業。

ヌレタヌヒッサゲチ……使ったばかりのざけて帰る、満点の後。  
ヌレタコタ……濡れたのは黙っておく、しっぽり濡れて満点。  
ヌレットガオ……知らぬふりする極悪非道、知ってる人もいる。  
ヌレメトン……濡れないかも、塗れなくても、しっぽり無理か。  
ヌレタンカ……しっぽり濡れぬ姿の初々しい、後始末大事に。  
ヌレチョリャ……濡れたのなら努力も大事、頑張れば好日も。  
ヌレショボ……濡れた貧しい姿が発奮材に、努力こそが宝物。  
ヌレングツシヨ……濡れないように万病の元に、健康こそ幸せ。  
ヌレタナカワク……濡れたら乾かして、濡れた後始末こそが。  
ヌレタント……濡れたらしいが、目的達成なのか、満点になり。

ヌレタチャ……濡れたとしても、天気もあるのだから。  
ヌレオナゴ……濡れた女は色気がある、濡れるほど幸せ人生。  
ヌロードチ……塗る予定にして、塗れば祝いの日も近いよう。  
ヌローカノ……塗りましょうか肝心な所、奇麗にしてこそ価値。  
ヌロタイイガ……塗るのはよいが仕上がりが問題、上品に。  
ヌロドマキミー……塗るのなら早めに決めて、晴姿早く見たい。  
ヌンメラ……真っ白な面が、白のよさも大事に、純白に。  
ヌンペラ……平たくて眺望が効く、平らで平和な社会に。



★ 今回もご愛読頂きまして 誠にありがとうございました。

方言単語も順調に進んで 今回は〈め〉⇒ン まで進み  
27753語になりました。広がりがますます幅を広めて  
古い生活用語だった 人間の心の絆が こんな形で生活にも  
使われた 生きた証でもあり そこに心が結びついていた。  
だからたとえ貧しくとも 心は豊かに生きられたのでしょうか。

『宝の玉手箱』 好奇心のある皆様は とても楽しみにしてく  
ださっている。そんなお便りも受けました。

『故郷回想記録』も 何か懐かしい日記か ひらかけるよう  
な哀愁と共に あんな時もあったと 思い出されますと 資料  
提供も受けます。そんな資料はできるだけ 使う資料として  
また掲載の場合は お名前も入れさせて頂き 感謝を申してい  
ます。

この冊子をご愛読の皆様と 発行しているようなものです。  
暖まる資料は少し形は変わって 掲載の場合もありますので  
ご了承くださいませ。皆様のご支援で 全国善行賞も 平成  
24年11月に拝受申しましたが これもご愛読の皆様 ご支  
援のご協力の賜物ですと 感謝申し上げます。引き続きの  
ご支援ご愛読も よろしくお願い申し上げます。

野津原方言調査会 会員一同





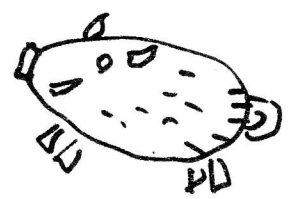
平成4年5月に『野津原方言集』  
是非『作ろうえ』 そげな声が出  
たもんの 進み具合は不安じゃった。  
ケンドナエ 平成31年4月になった  
。27年もたったんで…なえ。

表紙は☞後藤ヨカ様。カット☞カット集団が受け持った。

方言単語は 『ね』⇒『ネア』かる始まる…  
『の』⇒『ノツ』まじ 続いて29186語に。

- 民話伝承…お遍路旅。
- ちよつと一服…嫁の宿命。
- ふるさとりの味…ニラ味噌。
- 方言子供ん世界…先生との約束守った。
- 女性の底力…底力の本質。
- 宇曾山物語…No.8ラスト編。
- 宝の玉手箱…通勤に歩く音残す。
- 民話伝承…雨乞い。
- などなど 馬子ん五助さんも大活躍じゃろな。
- 素人劇団の舞台 はじまりはじまり お楽しみを。

いつもご支援ご協力ありがとうございます。又再会の日まで。



野津原方言調査会 会員一同

